

社会資本に関するインターネット調査 2021
報告書<本編>

2021 年 11 月

(一財)国土技術研究センター
国土政策研究所

社会資本に関するインターネット調査 2021 の調査概要等

1. 調査概要

(1) 調査の目的

近年の社会情勢の変化を踏まえ、国民の社会資本に対する認識、理解、評価の実態とその理由を明らかにするために JICE が土木学会と連携し、社会資本に関するインターネット調査を実施する。また、2017 年度に実施した同じ主旨の調査との比較や分析も実施し、近年の社会情勢の変化によるインフラに関する国民意識の変化なども把握する。更には、社会資本の保全・整備を進めるにあたっての論点・留意点を明確にし、社会資本に関する認知・関心を高め、健全な議論の契機となることを期待する。

(2) 調査対象者 : 全国 18 歳～79 歳男女

(3) サンプル数 : 3,000 人

(4) 調査期間 : 2021 年 4 月 27 日 (火) ～5 月 6 日 (木)

※前回調査は 2017.4. 29～5.10 に実施、(2)、(3)、(5) は今回と同様

(5) 調査方法 : 登録モニターによるインターネット調査

(6) 調査項目

1. 社会・生活の動向に関する意識・態度
2. 社会・生活に関する考え方
3. 社会・生活空間、国土に関する評価／重要度
4. 社会資本具体分野別の充足度評価、推進意向
5. 社会資本の状況に関する全体評価
6. 社会資本の維持管理・更新に関する認知・理解・評価
7. 社会資本整備のあり方、保全・整備の進め方に関する評価
8. 国家予算 費目別 今後の増減評価
9. 日本とあなたの住む地域の将来 (予測となるべき姿)
10. 属性 (フェイスシート)

(7) 実施体制

設問・分析等に関する助言を頂くため、以下メンバーによる有識者委員会を設置。

石田 東生 一般財団法人 国土技術研究センター 国土政策研究所 所長

大原 美保 国立研究開発法人 土木研究所水災害・リスクマネジメント国際センター主任研究員

川崎 茂信 一般財団法人 国土技術研究センター 理事

神田 佑亮 呉工業高等専門学校 環境都市工学分野 教授

谷口 博昭 公益社団法人 土木学会 会長

塚田 幸広 公益社団法人 土木学会 専務理事

松永 康男 一般財団法人 みなと総合研究財団 専務理事

湧川 勝己 東京建設コンサルタント 河川計画本部 技師長

2. 調査の特徴

- ・ 全国 3,000 サンプル、各都道府県の人口割合を踏まえたサンプル割付、性・年齢はブロック内で均等割付。
- ・ 3,000 と多数のサンプルを確保したため、ブロック別、都市規模別、性、年齢別などの集計・分析が可能。
- ・ 社会資本についてだけでなく、その評価の背景となる社会・生活の動向に関する意識・価値観及び日本、居住地域の将来(なりそうな姿、なるべき姿)について質問したため、それらと社会資本の関係の分析が可能。
- ・ 2017 年にも同様の調査を実施。前回調査と今回調査の結果を比較することにより、国民意識の変化の把握が可能。

3. 公表状況等

今回の調査の公表状況等は以下の通り。

- (1) 報告書等を JICE の HP (https://www.jice.or.jp/labs/infra_internet_survey_2021) に掲載。
- (2) 研究者・研究機関等が新たに分析等を実施できる形で調査結果のアンケート回答のローデータも公表(上記 HP に掲載)。
- (3) 今後、JICE では上記ローデータ等を活用した、今後の社会資本のあり方に関する懸賞論文を実施する予定(募集開始 : 令和4年3月頃を予定)。
- (4) 本調査は土木学会と連携して実施しており、調査の結果は、土木学会で今後行われる「コロナ後の”土木”のビッグピクチャー」に関する検討でも活用される予定。

○調査結果のポイント

1. 全体的に高まる社会・生活への不安

社会・生活に関する不安度を問う設問では、前回調査(2017)と比較し、全体的に不安度が高まっている【P6】。不安度が大きく高まっている項目が多いのは、「日本の経済成長・景気が悪化」などの活力・交流に関するもの及び「災害が頻発・激甚化する」、「地球温暖化問題が進行する」などの安全・安心に関するものとなっている。

2. 大きく変化する社会・生活環境と求められる変化への対応

新型コロナウイルス感染症の発生に伴う変化に関する設問に、約 9 割の者が変化があったと回答【P7 Q3-1】。これに象徴されるように、社会・生活環境の変化やそれに伴うニーズの変化は大きい。また、社会資本のあり方・保全・整備の進め方に関する設問では、「新型コロナによる変化への対応」、「国土強靱化」、「脱炭素社会実現への取組」、「新技術の開発と導入」など、近年、大きな変化のあった分野への対応について、6割～7割程度の者が肯定的な回答をしており【P18 Q14,Q25,Q26,Q27】、これらの社会・生活環境の変化への対応が求められている。

3. 地域により異なる意識

居住地域の社会資本具体分野別の充足度評価に関する設問【P12】や居住地域の将来像の予測に関する設問【P25】では、地域ブロック別・都市規模別で評価や意識が大きく異なる。こういった地域毎の意識の差も十分踏まえ、地域にとってより良い社会資本の保全・整備を進めていく必要がある。

4. 中長期計画に基づく計画的で効率的な社会資本の保全・整備へのニーズの高まり

日本全体の社会資本の推進意向に関する設問では、全ての分野において、充足すべきとの割合が 7 割を超えており【P13 Q7-4】、社会資本整備に対するニーズが高いことが明らかとなった。また、中長期計画・財源確保・計画的効率的推進の必要性に関する設問では、肯定的回答が 7 割を超え、前回調査と比較しても 6.2 ポイント増加【P18～19 Q29】。中長期計画に基づく計画的で効率的な社会資本の保全・整備へのニーズは高まっている。

5. 十分認知されていない社会資本をとりまく環境

社会資本の維持・管理の課題に関する認知が5割にとどまっている【P16 Q9】。また、アメリカやヨーロッパ諸国などでの社会資本投資の増大に関する認知も3割程度である【P20 Q30】。前回調査と比較すると認知が高まっている項目もあるが、社会資本をとりまく環境は、いまだ十分認知されていると言える状態ではない。社会資本の維持・管理の課題に関する認知【P17 Q9】や日本の過酷な自然条件に関する認知【P22 Q31】については、若い世代のほうが、また、男性より女性のほうが認知率が低い傾向にある。また、主な情報の入手先を問う設問では、紙媒体が前回調査より減少し、インターネット媒体が増加している【P43 Q50-1】。情報発信を行う際には、これらの点にも留意する必要がある。

6. 公共の果たす役割への期待の高まり

居住地域のなるべき姿として、「社会的な課題解決を行政に依存する地域」を選択した割合が大きく増加(前回 20.9%→今回 30.4%)【P29】。また、今後の公共事業予算の増減に関する設問では、増やす計が大きく増加(前回 41.3%→今回 50.6%)【P22 Q32】。更には、「必要が生じた場合、土地利用などの私権が制限されるのは止むを得ない」との回答も大きく増加(前回 37.9%→今回 55.9%)【P19 Q23】。災害の激甚化、新型コロナウイルス感染症の発生、地球温暖化の進行など、個人だけでは対応困難な課題が山積する中、公共の果たす役割への期待が高まっているものと推測される。

7. 求められる社会資本のなるべき姿の具体像

1. で述べた通り、社会・生活への不安は高まっている。また、全体的な社会資本の充足度(日本全体)は悪化【P15】。一方で、社会資本の分野別の充足度については、少なくとも分野で向上【P11】。これは、社会資本整備が着実に進捗していることも一因と考えられるが、国民のなかで社会資本のなるべき姿の具体像がなく、全体的な不満はあるものの、具体の分野別社会資本については、何が不足なのかイメージできていない可能性もある。より良い社会を実現するための社会資本のなるべき姿の具体像の提示が必要。特に将来に悲観的な者(若者や世帯収入の低い者【P26～27】など)へのアピールが重要。また、社会資本のなるべき姿の具体像の検討にあたっては、上記の国民意識を十分に踏まえる必要がある。

8. 日本の将来に希望を与え得る社会資本

日本の全体的な社会資本の充足度評価と日本の将来予測との相関分析を行ったところ、充足度評価が高い者ほど、希望のある将来を予測している割合が高いことが明らかとなった【P31】。社会資本の充足が国民の将来予測に希望を与える一因となり得ると言える。

9. 適切な判断を頂くためにも社会資本に関する課題等への認知度の向上が鍵

社会資本に関する課題等を認知しているグループと認知していないグループを抽出し、グループ毎に、「全体的な社会資本の充足度評価」や「今後の公共事業費の増減の意向」などでどのような傾向が見られるか分析を行った【P32】。その結果、認知しているグループでは、「どちらともいえない」(判断保留)を選ぶ割合が全体平均より10～15%少なく、自らの認知している事実に基づき、充足度の判断をしっかりと下していることが確認出来た。社会資本の保全・整備に国民の判断を適切に反映させる意味でも、国民の皆様が社会資本を取り巻く環境や整備による効果等を知っていただく取り組みが大切である。

なお、認知しているグループにおいては、全体的な社会資本の充足度評価は全体平均と比較して高いにもかかわらず、今後の公共事業予算の増加について、より肯定的であり、日本の将来予測について、より悲観的である。これは、社会資本に関する課題等を認知しているグループは、現況の社会資本の充足度について一定の評価はしているが、日本の将来については、楽観はしておらず、社会資本をより充足させていくべきであると考えているものと推測される。

10. 活力保持・成長を求められている日本の将来

1. で述べた通り、社会・生活への不安は全体的に高まっているが、日本の将来なるべき姿については、「活力を保持した日本」、「生産性が向上し、成長する日本」を選択した割合が、前回同様、合わせて約6割に及んだ(前回調査:59.2%、今回調査:61.7%)。また、仕事を重視しないグループや都会暮らしに消極的なグループなど、様々な価値観のグループを抽出し、相関分析も行った【P33～P38】。その結果、日本の将来なるべき姿について、いずれのグループでも「活力を保持した日本」、「生産性が向上し、成長する日本」を選択した割合が合わせて5割を超えた。

調査結果

■社会・生活の動向に関する不安度(自分・生活地域／日本全体・社会)

- 日本全体での不安の方が、居住地域よりも強い。
- 不安度が特に高いのは、「大地震が起こる」、「災害が頻発・激甚化する」、「新型コロナなどにより社会・経済・生活活動が停滞・破綻」など安全・安心に関するもの、及び、「日本の経済成長・景気が悪化」、「人口減少・少子化・高齢化が進行」などの活力・交流に関するもの。

Q1-1. 各々の項目について「自分自身や家族の周りや地域のこと」として、不安を感じるかどうかお答えください。(それぞれひとつだけ)

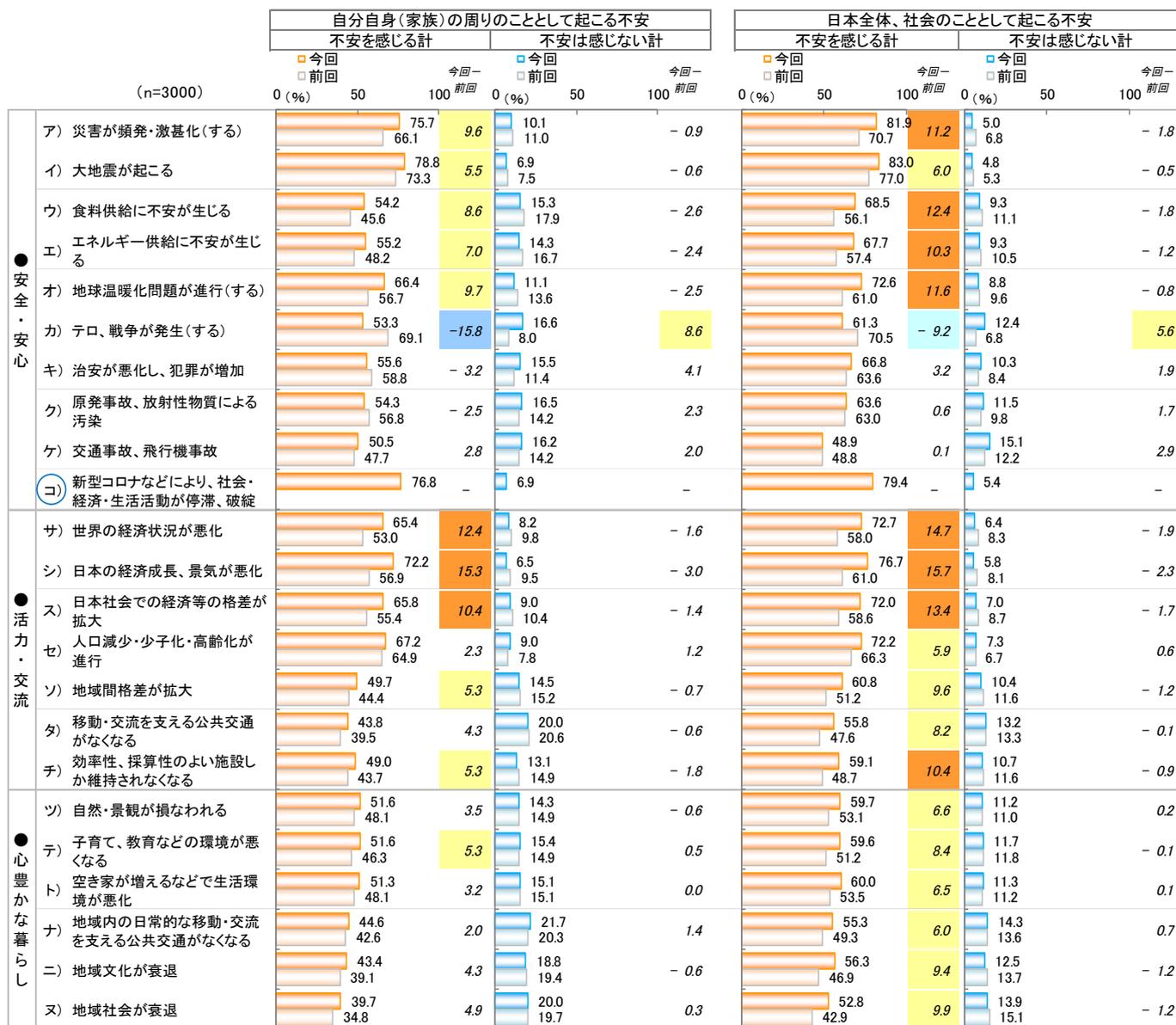
Q1-2. 各々の項目について「日本全体や社会のこと」として、不安を感じるかどうかお答えください。(それぞれひとつだけ)

| | 自分自身(家族)の周りのこととして起こる不安 | (%) | | | | | 不安を感じない計 | 不安を感じない計 | 日本全体、社会のこととして起こる不安 | | | | | 不安を感じない計 | 不安を感じない計 |
|------------|--------------------------------|-----------|--------|-----------|---------|-----------|----------|----------|--------------------|--------|-----------|---------|-----------|----------|----------|
| | | 非常に不安を感じる | 不安を感じる | どちらともいえない | 不安は感じない | 全く不安は感じない | | | 非常に不安を感じる | 不安を感じる | どちらともいえない | 不安は感じない | 全く不安は感じない | | |
| ●安全・安心 | ア) 災害が頻発・激甚化する | 24.6 | 51.1 | 14.2 | 7.4 | 2.7 | 75.7 | 10.1 | 36.1 | 45.8 | 13.1 | 3.0 | 1.9 | 81.9 | 5.0 |
| | イ) 大地震が起こる | 34.4 | 44.4 | 14.3 | 4.8 | 2.1 | 78.8 | 6.9 | 43.1 | 39.8 | 12.2 | 3.0 | 1.8 | 83.0 | 4.8 |
| | ウ) 食料供給に不安が生じる | 12.6 | 41.6 | 30.6 | 11.7 | 3.6 | 54.2 | 15.3 | 24.7 | 43.8 | 22.2 | 6.7 | 2.6 | 68.5 | 9.3 |
| | エ) エネルギー供給に不安が生じる | 13.5 | 41.7 | 30.6 | 10.9 | 3.4 | 55.2 | 14.3 | 24.9 | 42.9 | 22.9 | 6.6 | 2.7 | 67.7 | 9.3 |
| | オ) 地球温暖化問題が進行(する) | 20.6 | 45.8 | 22.5 | 7.7 | 3.4 | 66.4 | 11.1 | 29.3 | 43.3 | 18.7 | 5.5 | 3.3 | 72.6 | 8.8 |
| | カ) テロ、戦争が発生(する) | 16.4 | 36.9 | 30.1 | 11.8 | 4.8 | 53.3 | 16.6 | 25.0 | 36.3 | 26.4 | 8.5 | 3.8 | 61.3 | 12.4 |
| | キ) 治安が悪化し、犯罪が増加 | 16.9 | 38.7 | 28.8 | 11.8 | 3.7 | 55.6 | 15.5 | 24.2 | 42.5 | 22.9 | 7.7 | 2.7 | 66.8 | 10.3 |
| | ク) 原発事故、放射性物質による汚染 | 19.0 | 35.4 | 29.1 | 11.8 | 4.7 | 54.3 | 16.5 | 26.6 | 37.0 | 24.9 | 8.3 | 3.3 | 63.6 | 11.5 |
| | ケ) 交通事故、飛行機事故 | 13.0 | 37.5 | 33.4 | 12.6 | 3.6 | 50.5 | 16.2 | 13.6 | 35.3 | 36.0 | 11.0 | 4.1 | 48.9 | 15.1 |
| | コ) 新型コロナなどにより、社会・経済・生活活動が停滞、破綻 | 32.3 | 44.5 | 16.3 | 4.8 | 2.1 | 76.8 | 6.9 | 38.2 | 41.2 | 15.2 | 3.3 | 2.1 | 79.4 | 5.4 |
| ●活力・交流 | サ) 世界の経済状況が悪化 | 20.3 | 45.1 | 26.4 | 6.0 | 2.2 | 65.4 | 8.2 | 29.5 | 43.1 | 20.9 | 4.1 | 2.3 | 72.7 | 6.4 |
| | シ) 日本の経済成長、景気が悪化 | 25.8 | 46.4 | 21.2 | 4.6 | 1.9 | 72.2 | 6.5 | 33.9 | 42.8 | 17.4 | 3.8 | 2.0 | 76.7 | 5.8 |
| | ス) 日本社会での経済等の格差が拡大 | 23.1 | 42.7 | 25.2 | 6.7 | 2.3 | 65.8 | 9.0 | 28.8 | 43.2 | 21.0 | 4.7 | 2.3 | 72.0 | 7.0 |
| | セ) 人口減少・少子化・高齢化が進行 | 24.7 | 42.5 | 23.8 | 6.6 | 2.4 | 67.2 | 9.0 | 31.9 | 40.3 | 20.5 | 4.8 | 2.5 | 72.2 | 7.3 |
| | ソ) 地域間格差が拡大 | 13.8 | 35.9 | 35.8 | 11.1 | 3.4 | 49.7 | 14.5 | 21.0 | 39.7 | 28.8 | 7.4 | 3.0 | 60.8 | 10.4 |
| | タ) 移動・交流を支える公共交通がなくなる | 11.9 | 31.8 | 36.2 | 15.6 | 4.4 | 43.8 | 20.0 | 17.6 | 38.3 | 31.0 | 9.5 | 3.7 | 55.8 | 13.2 |
| | チ) 効率性、採算性のよい施設しか維持されなくなる | 12.0 | 37.0 | 37.9 | 10.0 | 3.1 | 49.0 | 13.1 | 18.4 | 40.7 | 30.2 | 7.7 | 2.9 | 59.1 | 10.7 |
| ●心豊かな暮らし | ツ) 自然・景観が損なわれる | 14.7 | 36.9 | 34.1 | 11.1 | 3.2 | 51.6 | 14.3 | 21.0 | 38.7 | 29.1 | 8.0 | 3.2 | 59.7 | 11.2 |
| | テ) 子育て、教育などの環境が悪くなる | 15.6 | 36.1 | 32.9 | 11.5 | 4.0 | 51.6 | 15.4 | 20.0 | 39.6 | 28.7 | 8.0 | 3.7 | 59.6 | 11.7 |
| | ト) 空き家が増えるなどで生活環境が悪化 | 12.0 | 39.3 | 33.6 | 11.6 | 3.5 | 51.3 | 15.1 | 18.0 | 42.0 | 28.7 | 8.1 | 3.2 | 60.0 | 11.3 |
| | ナ) 地域内の日常的な移動・交流を支える公共交通がなくなる | 11.9 | 32.7 | 33.7 | 16.6 | 5.1 | 44.6 | 21.7 | 17.0 | 38.4 | 30.4 | 10.5 | 3.8 | 55.3 | 14.3 |
| | ニ) 地域文化が衰退 | 10.5 | 32.9 | 37.8 | 13.2 | 5.6 | 43.4 | 18.8 | 17.5 | 38.8 | 31.2 | 8.4 | 4.0 | 56.3 | 12.5 |
| ヌ) 地域社会が衰退 | 8.6 | 31.1 | 40.2 | 14.5 | 5.6 | 39.7 | 20.0 | 15.1 | 37.7 | 33.3 | 9.5 | 4.4 | 52.8 | 13.9 | |

■ 70%～ ■ 60%～69.9% ■ 50%～59.9% ■ 40%～49.9% ○ 新設問(2017 調査にない設問)

【前回比較】

- ・ 前回調査との比較では、全体的に不安度が高まっている。不安度が大きく高まっている項目が多いのは、「日本の経済成長・景気が悪化」などの活力・交流に関するもの及び「災害が頻発・激甚化する」、「地球温暖化問題が進行する」などの安全・安心に関するもの。

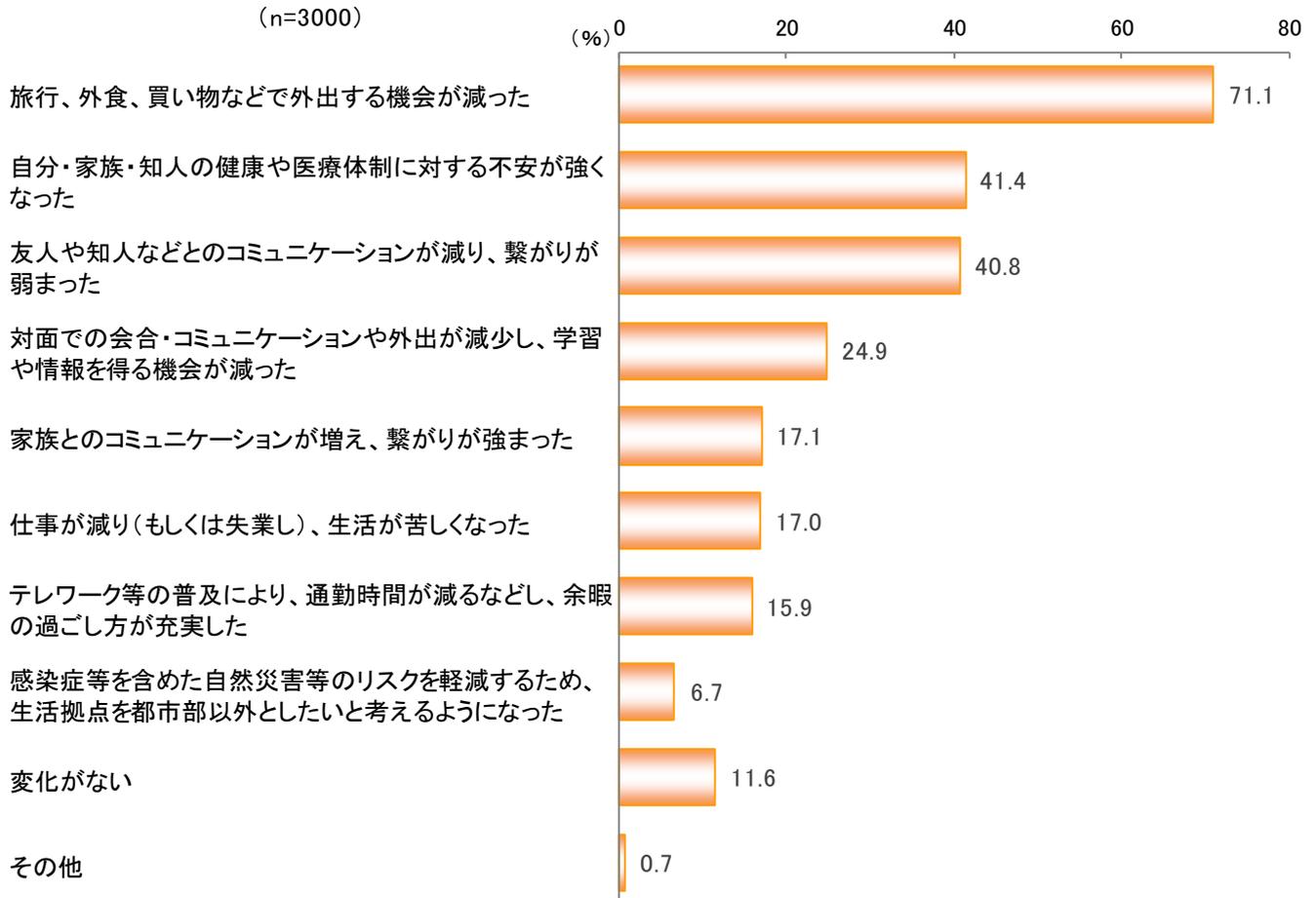


■10%～ ■5.0%～9.9% ■-5.0%～-9.9% ■-10%～ ○新設問(2017 調査にない設問)

■新型コロナウイルス感染症の発生を受けての変化

・ 約 9 割の者が変化があったと回答している。

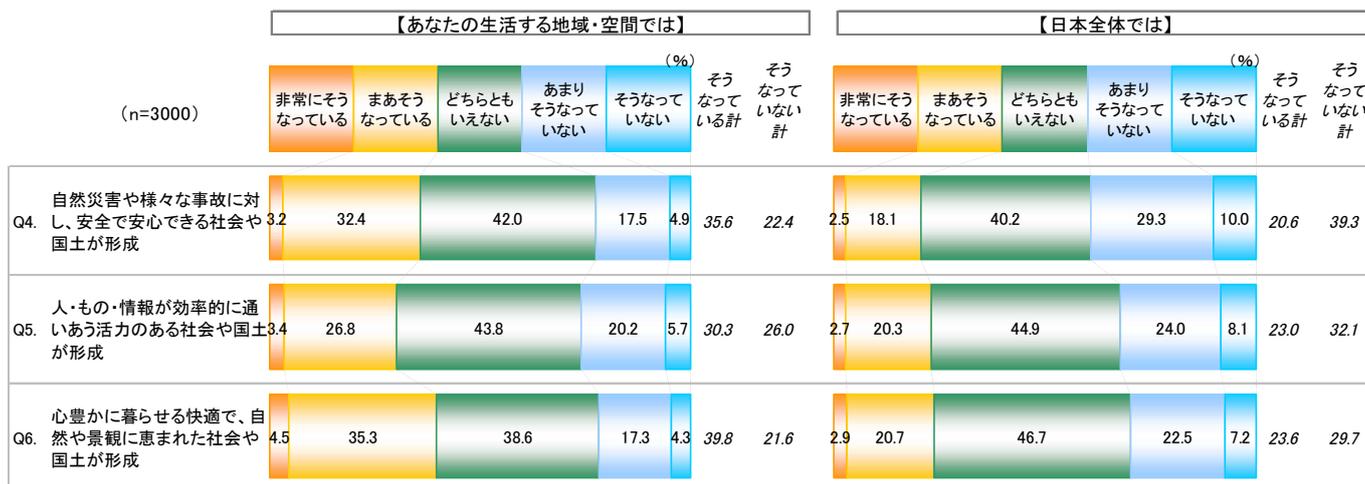
Q3-1. 新型コロナウイルス感染症の発生を受けて、あなたご自身にどのような変化がありましたか？（該当するものすべて選択ください）



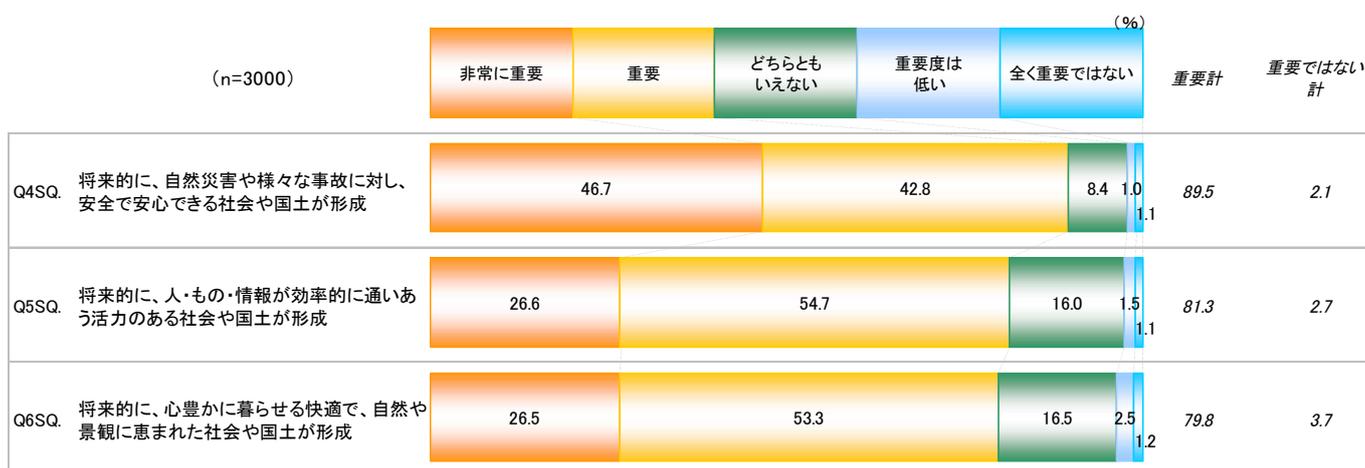
■社会・国土形成の3つの方向性の評価／重要度

- ・ 社会・国土形成は重要との認識は高く、「安全・安心」、「活力ある」、「心豊かに暮らせる」いずれの項目でも重要であるとの回答が8割程度以上となっている。
- ・ 一方で、社会・国土形成に関する現状評価については、「どちらともいえない」と回答している者が4～5割程度となっている。

- Q4. 自然災害や様々な事故に対し、安全で安心できる社会や国土が形成されていると思いますか。(〇は一つずつ)
 Q5. 人・もの・情報が効率的に通いあう活力のある社会や国土が形成されていると思いますか。(〇は一つずつ)
 Q6. 心豊かに暮らせる快適で、自然や景観に恵まれた社会や国土が形成されていると思いますか。(〇は一つずつ)

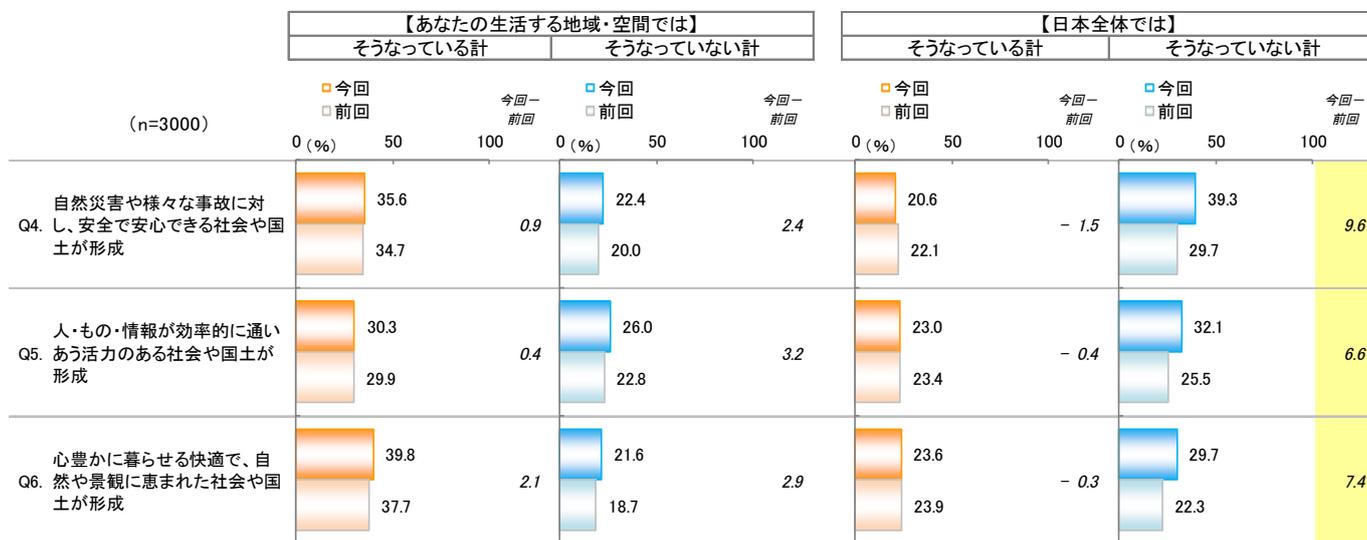


- Q4SQ. 将来的に、自然災害や様々な事故に対し、安全で安心できる社会や国土を形成していくことは、重要だと思いますか。(〇は一つ)
 Q5SQ. 将来的に、人・もの・情報が効率的に通いあう活力のある社会や国土を形成していくことは、重要だと思いますか。(〇は一つ)
 Q6SQ. 将来的に、心豊かに暮らせる快適で、自然や景観に恵まれた社会や国土を形成していくことは、重要だと思いますか。(〇は一つ)

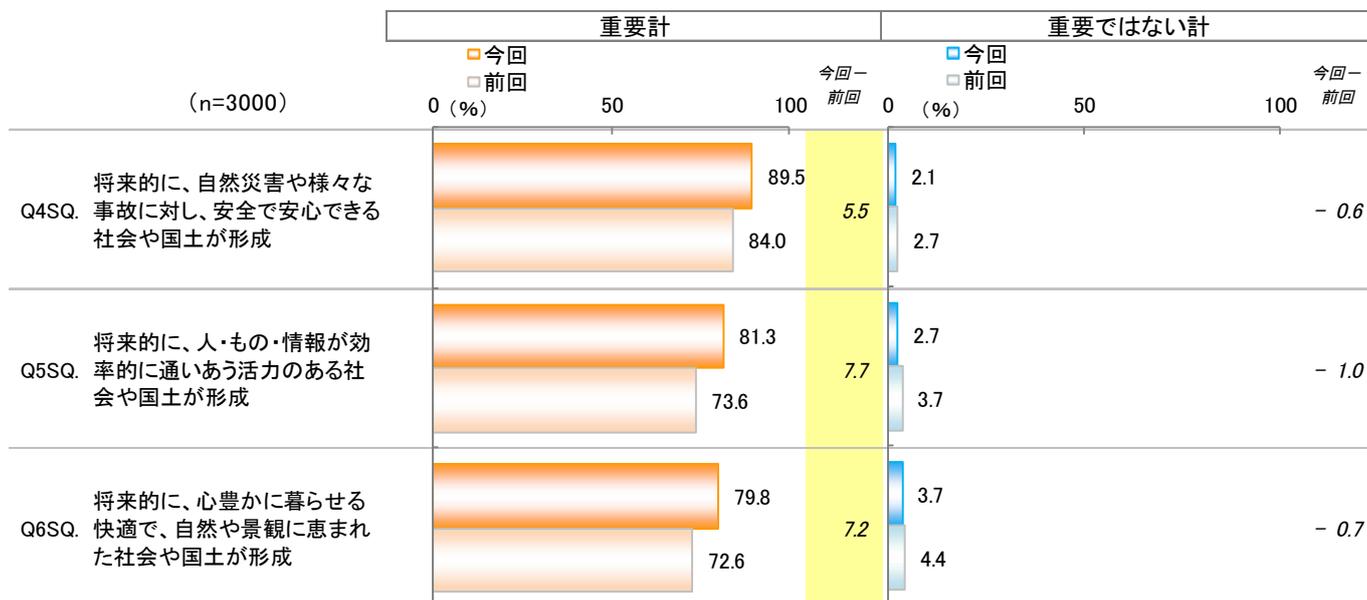


【前回比較】

・ 前回調査との比較では、日本全体の現状評価については、いずれの項目でも否定的な回答が5ポイント以上増えている。また、重要度については、いずれの項目でも重要であるとの回答が5ポイント以上増えている。



■ 10%～ ■ 5.0%～9.9% ■ -5.0%～-9.9% ■ -10%～



■ 10%～ ■ 5.0%～9.9% ■ -5.0%～-9.9% ■ -10%～

■社会資本具体分野別の充足度評価(居住地域/日本全体)

・ 居住地域と日本全体での評価の差が大きい項目もある。「活力・交流関連の社会資本」では居住地域より日本全体が、「心豊かな暮らし関連」「安全・安心関連」では日本全体より居住地域が整備されていると評価される傾向がある。

Q7-1.「あなたの住む地域」について、次のインフラ(社会資本)は充足していると思いますか。(それぞれひとつだけ)

Q7-2.「日本全体」について、次のインフラ(社会資本)は充足していると思いますか。(それぞれひとつだけ)

| | | あなたの住む地域 | | | | | | 日本全体 | | | | | | | | | |
|------------------------------|----------------------------|-----------|--------|-----------|------------|-------------|-------|------|-----------|--------|-----------|------------|-------------|-------|------|---------|----------|
| | | 非常に充足している | 充足している | どちらともいえない | あまり充足していない | ほとんど充足していない | わからない | (%) | 非常に充足している | 充足している | どちらともいえない | あまり充足していない | ほとんど充足していない | わからない | (%) | 充足している計 | 充足していない計 |
| ①安全・安心 | ア) ◎ 河川の施設 | 3.0 | 30.3 | 39.9 | 15.6 | 8.5 | 7.7 | 33.3 | 19.1 | 2.0 | 15.5 | 37.2 | 30.2 | 7.5 | 7.7 | 17.5 | 37.7 |
| | イ) 海岸施設 | 2.6 | 16.4 | 50.4 | 12.3 | 8.4 | 14.8 | 19.1 | 15.7 | 1.8 | 14.3 | 39.3 | 28.3 | 7.1 | 9.1 | 16.1 | 35.5 |
| | ウ) 「命の道」としての高速道路や幹線道路 | 2.8 | 26.1 | 40.8 | 16.2 | 5.4 | 8.7 | 28.9 | 21.6 | 2.4 | 21.4 | 41.0 | 22.0 | 5.1 | 8.1 | 23.7 | 27.2 |
| | エ) 安全性の高い街 | 2.4 | 19.6 | 42.2 | 21.8 | 5.9 | 8.2 | 22.0 | 27.6 | 1.5 | 13.7 | 41.3 | 28.0 | 7.5 | 8.1 | 15.1 | 35.5 |
| | オ) 災害、避難情報などを収集・活用できる環境の整備 | 2.1 | 19.8 | 43.3 | 20.0 | 6.3 | 8.4 | 21.9 | 26.4 | 2.0 | 18.2 | 41.7 | 22.1 | 7.6 | 8.3 | 20.2 | 29.8 |
| | カ) ◎ 安全が確保された通学路、歩道 | 2.5 | 21.9 | 39.0 | 22.5 | 7.8 | 6.4 | 24.3 | 30.3 | 1.9 | 14.0 | 42.2 | 25.3 | 7.6 | 9.1 | 15.9 | 32.9 |
| ②活力・交流 | キ) 広域ネットワークを形成する高速道路・幹線道路 | 4.0 | 27.6 | 40.5 | 15.5 | 5.2 | 7.2 | 31.6 | 20.7 | 2.8 | 25.4 | 40.9 | 17.9 | 5.0 | 8.0 | 28.2 | 22.9 |
| | ク) ETCなどの設備 | 4.8 | 35.3 | 37.8 | 11.4 | 3.2 | 7.4 | 40.1 | 14.7 | 4.7 | 31.1 | 38.4 | 14.3 | 3.4 | 8.1 | 35.8 | 17.6 |
| | ケ) ● 広域ネットワークを形成する新幹線・高速鉄道 | 4.7 | 29.0 | 39.7 | 12.9 | 6.4 | 7.2 | 33.7 | 19.4 | 4.0 | 29.8 | 39.6 | 15.1 | 3.7 | 7.7 | 33.8 | 18.9 |
| | コ) ● 環状道路や放射状の道路 | 3.9 | 23.2 | 41.9 | 16.5 | 7.0 | 7.6 | 27.0 | 23.5 | 3.2 | 25.7 | 40.7 | 17.3 | 4.4 | 8.7 | 28.9 | 21.6 |
| | サ) ● 国際ハブ空港 | 3.1 | 16.3 | 41.1 | 16.6 | 13.0 | 10.0 | 19.4 | 29.6 | 3.3 | 22.4 | 37.4 | 20.2 | 7.1 | 9.6 | 25.7 | 27.3 |
| | シ) ● 遠隔地との交流を実現する空港・港湾 | 2.9 | 19.1 | 43.6 | 14.5 | 10.6 | 9.3 | 22.0 | 25.1 | 3.0 | 24.1 | 39.4 | 17.8 | 5.8 | 9.9 | 27.1 | 23.6 |
| | ス) ● 効率的な国際物流ネットワークを形成する港湾 | 2.1 | 16.0 | 45.2 | 14.2 | 9.7 | 12.7 | 18.1 | 24.0 | 2.9 | 20.7 | 41.5 | 17.3 | 5.6 | 12.1 | 23.6 | 22.8 |
| | セ) ● 交通機関の連携した総合的な交通ネットワーク | 3.1 | 22.4 | 41.4 | 17.0 | 7.4 | 8.7 | 25.5 | 24.4 | 3.0 | 23.4 | 42.2 | 17.8 | 4.9 | 8.8 | 26.4 | 22.7 |
| | ソ) 日常生活や経済活動を支える物流網 | 4.7 | 34.4 | 38.5 | 12.2 | 3.4 | 6.6 | 39.2 | 15.7 | 5.3 | 32.8 | 38.8 | 12.7 | 3.5 | 6.9 | 38.1 | 16.2 |
| | タ) ● 交流を促す情報を収集・活用できる環境の整備 | 3.3 | 24.2 | 44.0 | 15.0 | 5.1 | 8.4 | 27.5 | 20.1 | 3.2 | 24.6 | 43.9 | 15.0 | 4.2 | 9.2 | 27.8 | 19.1 |
| ③心豊かな暮らし | チ) ● 中心市街地を活性化する都市整備 | 3.3 | 25.5 | 39.8 | 18.0 | 6.9 | 6.5 | 28.8 | 24.9 | 3.8 | 26.7 | 40.8 | 16.2 | 4.6 | 8.0 | 30.5 | 20.8 |
| | ツ) ◎ 地域の道路 | 5.2 | 35.3 | 37.9 | 13.3 | 3.9 | 4.4 | 40.5 | 17.2 | 3.6 | 28.8 | 41.4 | 15.3 | 4.0 | 6.9 | 32.4 | 19.4 |
| | テ) 地域の交通機関(鉄道、バス) | 6.3 | 29.5 | 34.1 | 17.7 | 8.0 | 4.4 | 35.8 | 25.7 | 4.0 | 25.2 | 40.2 | 18.9 | 4.9 | 6.7 | 29.2 | 23.9 |
| | ト) ◎ 公園・緑地、スポーツレクリエーション施設 | 5.9 | 34.4 | 34.6 | 15.9 | 5.5 | 3.7 | 40.3 | 21.4 | 3.5 | 24.5 | 43.0 | 17.2 | 4.8 | 7.0 | 28.0 | 22.0 |
| | ナ) ◎ 医療、福祉、子育て、教育文化施設 | 3.5 | 27.3 | 40.7 | 17.9 | 4.9 | 5.6 | 30.0 | 22.8 | 2.1 | 18.0 | 42.6 | 23.1 | 7.2 | 7.0 | 20.2 | 30.2 |
| | ニ) ◎ 安全でおいしい水を供給する上水道 | 10.6 | 47.1 | 27.8 | 8.0 | 4.2 | 2.3 | 57.7 | 10.3 | 10.6 | 37.3 | 33.5 | 9.2 | 3.2 | 6.2 | 47.9 | 12.4 |
| | ヌ) ◎ 下水道などの汚水処理施設 | 7.9 | 44.0 | 30.7 | 8.6 | 3.2 | 5.6 | 51.9 | 11.8 | 7.8 | 34.1 | 37.1 | 10.7 | 2.9 | 7.4 | 41.9 | 13.6 |
| | ネ) ◎ 恵まれた自然景観 | 9.1 | 36.4 | 35.5 | 11.2 | 4.1 | 3.7 | 45.5 | 15.3 | 4.1 | 27.1 | 44.5 | 14.2 | 3.9 | 6.2 | 31.2 | 18.1 |
| | ノ) ● 脱炭素社会を実現するための社会基盤 | 7.9 | 48.0 | 19.5 | 7.2 | 14.1 | 11.1 | 26.8 | 20.1 | 10.3 | 43.8 | 23.1 | 8.9 | 12.0 | 12.3 | 32.0 | 12.3 |
| | ハ) 質の高い居住・生活空間 | 3.2 | 23.8 | 46.0 | 16.2 | 4.9 | 5.9 | 27.0 | 21.1 | 2.7 | 17.2 | 47.4 | 19.1 | 5.6 | 8.1 | 19.9 | 24.7 |
| ヒ) 生活を快適にする道路利用や景観を良くする無電柱化 | 2.2 | 12.8 | 36.6 | 22.4 | 17.8 | 8.2 | 15.0 | 40.2 | 1.8 | 13.1 | 39.7 | 22.9 | 13.2 | 9.3 | 14.9 | 36.1 | |
| フ) 快適な生活に必要な情報を収集・活用できる環境の整備 | 2.4 | 20.3 | 43.5 | 18.2 | 7.2 | 8.4 | 22.8 | 25.4 | 2.8 | 19.2 | 44.7 | 17.7 | 6.1 | 9.5 | 22.1 | 23.7 | |

■ 40%～ ■ 30%～39.9% ■ 20%～29.9% ■ 10%～19.9%

● 日本全体が居住地域を上回る

◎ 居住地域と日本全体8ポイント以上差

○ 新設問(2017 調査にない設問)

【前回比較】

・ 前回調査と比較すると、「河川の施設」、「海岸施設」、「安全性の高い街」については、日本全体の「充足していない計」が5ポイント以上増えている。一方で、「活力・交流」、「心豊かな暮らし」に関する社会資本については、「充足している計」が5ポイント以上増えている項目が少なからずある。



※(ヒ)生活を快適にする道路利用や景観を良くする無電柱化：2017年は2項目で聴取。(2017年項目：ノ)景観を良くするための無電柱化／ハ)カフェなど生活を快適にする道路利用)

■10%～ ■5.0%～9.9% ■-5.0%～-9.9% ■-10%～ ○新設問(2017調査にない設問)

■居住地域に関する社会資本具体分野別の充足度評価（地域ブロック別・都市規模別）

- ・ 地域ブロック別で評価が大きく異なる。四国ブロック、中国ブロック、北陸ブロック、東北ブロック、北海道ブロックで充足度評価が低い。
- ・ 都市規模別でも評価が大きく異なる。地方圏の30万人以下の市町村（県庁所在地を除く）の充足度評価が低い。
- ・ 地域ブロック別、都市規模別、両者とも、活力・交流に関する分野で差が大きい。

●活力・交流

Q7-1.「あなたの住む地域」について、次のインフラ(社会資本)は充足していると思いますか。(それぞれひとつだけ)

(%)

| | | n | ●活力・交流 | | | | | | | | | | |
|-----------|--------------------------|------|--------------------------|------------|-------------------------|---------------|----------|---------------------|-------------------------|-------------------------|--------------------|-------------------------|-------------------|
| | | | キ)広域ネットワークを形成する高速道路・幹線道路 | ク)ETCなどの設備 | ケ)広域ネットワークを形成する新幹線・高速鉄道 | コ)環状道路や放射状の道路 | サ)国際ハブ空港 | シ)遠隔地との交流を実現する空港・港湾 | ス)効率的な国際物流ネットワークを形成する港湾 | セ)交通機関の連携した総合的な交通ネットワーク | ソ)日常生活や経済活動を支える物流網 | タ)交流を促す情報を収集・活用できる環境の整備 | チ)中心市街地を活性化する都市整備 |
| 全体 | | 3000 | 20.7 | 14.7 | 19.4 | 23.5 | 29.6 | 25.1 | 24.0 | 24.4 | 15.7 | 20.1 | 24.9 |
| 地域ブロック別 | 北海道ブロック | 120 | 29.2 | 17.5 | 34.2 | 31.7 | 36.7 | 31.7 | 25.0 | 32.5 | 22.5 | 28.3 | 27.5 |
| | 東北ブロック | 210 | 29.5 | 20.0 | 25.7 | 33.8 | 40.5 | 32.9 | 31.0 | 38.6 | 25.2 | 28.1 | 35.7 |
| | 関東ブロック | 1070 | 15.9 | 10.3 | 13.3 | 15.9 | 21.5 | 18.7 | 17.4 | 16.4 | 10.2 | 14.8 | 19.0 |
| | 北陸ブロック | 120 | 25.0 | 17.5 | 20.0 | 25.8 | 45.0 | 34.2 | 31.7 | 30.0 | 24.2 | 25.8 | 33.3 |
| | 中部ブロック | 360 | 20.6 | 13.9 | 17.5 | 22.5 | 26.7 | 24.7 | 21.1 | 21.9 | 15.3 | 20.0 | 27.2 |
| | 近畿ブロック | 510 | 18.8 | 15.3 | 17.3 | 22.7 | 27.3 | 23.7 | 25.1 | 22.0 | 14.5 | 16.7 | 21.4 |
| | 中国ブロック | 180 | 26.7 | 23.3 | 25.6 | 33.3 | 42.2 | 36.7 | 33.9 | 35.0 | 21.1 | 26.7 | 32.8 |
| | 四国ブロック | 100 | 32.0 | 19.0 | 42.0 | 45.0 | 59.0 | 41.0 | 46.0 | 47.0 | 29.0 | 36.0 | 41.0 |
| 九州・沖縄ブロック | 330 | 22.1 | 17.3 | 24.5 | 28.2 | 31.8 | 27.0 | 27.0 | 30.3 | 17.0 | 24.5 | 27.3 | |
| 都市規模別 | 三大都市圏の政令指定都市及び東京23区 | 846 | 13.8 | 9.7 | 10.6 | 13.5 | 19.7 | 16.0 | 16.2 | 13.2 | 8.9 | 13.1 | 14.1 |
| | 三大都市圏の県庁所在地及び人口30万人以上の都市 | 302 | 16.6 | 8.6 | 16.9 | 18.9 | 22.8 | 23.2 | 20.5 | 18.5 | 9.3 | 15.2 | 20.5 |
| | 三大都市圏の上記以外の地域 | 499 | 21.8 | 15.6 | 18.4 | 23.0 | 26.1 | 23.4 | 22.0 | 23.2 | 16.4 | 20.2 | 26.7 |
| | 地方中枢都市 | 254 | 14.6 | 7.1 | 15.0 | 18.1 | 26.8 | 18.9 | 17.7 | 20.5 | 13.0 | 15.4 | 14.6 |
| | 地方中核都市人口30万人以上の都市及び県庁所在地 | 248 | 22.2 | 16.1 | 24.6 | 32.3 | 44.4 | 35.9 | 34.3 | 34.3 | 16.9 | 21.8 | 32.7 |
| | 地方圏のその他の市 | 557 | 30.3 | 22.4 | 30.0 | 35.5 | 44.3 | 37.3 | 35.4 | 40.2 | 24.8 | 30.9 | 40.2 |
| | 地方圏の町村 | 202 | 34.7 | 26.7 | 32.2 | 38.1 | 37.6 | 34.7 | 33.2 | 36.6 | 27.7 | 31.7 | 34.2 |

充足していない計

■ 全体より10ポイント以上高い ■ 全体より5ポイント以上高い ■ 全体より5ポイント以上低い ■ 全体より10ポイント以上低い
○ 新設問(2017調査にない設問)

■社会資本具体分野別の推進意向(居住地域／日本全体)

・日本全体では、全ての分野で推進意向が高いとの回答の割合が7割を超えており、全体的に推進の意向は高い。

Q7-3.「あなたの住む地域」について、インフラ(社会資本)のそれぞれについてどの程度充足・整備していくべきと思いますか。(それぞれひとつだけ)

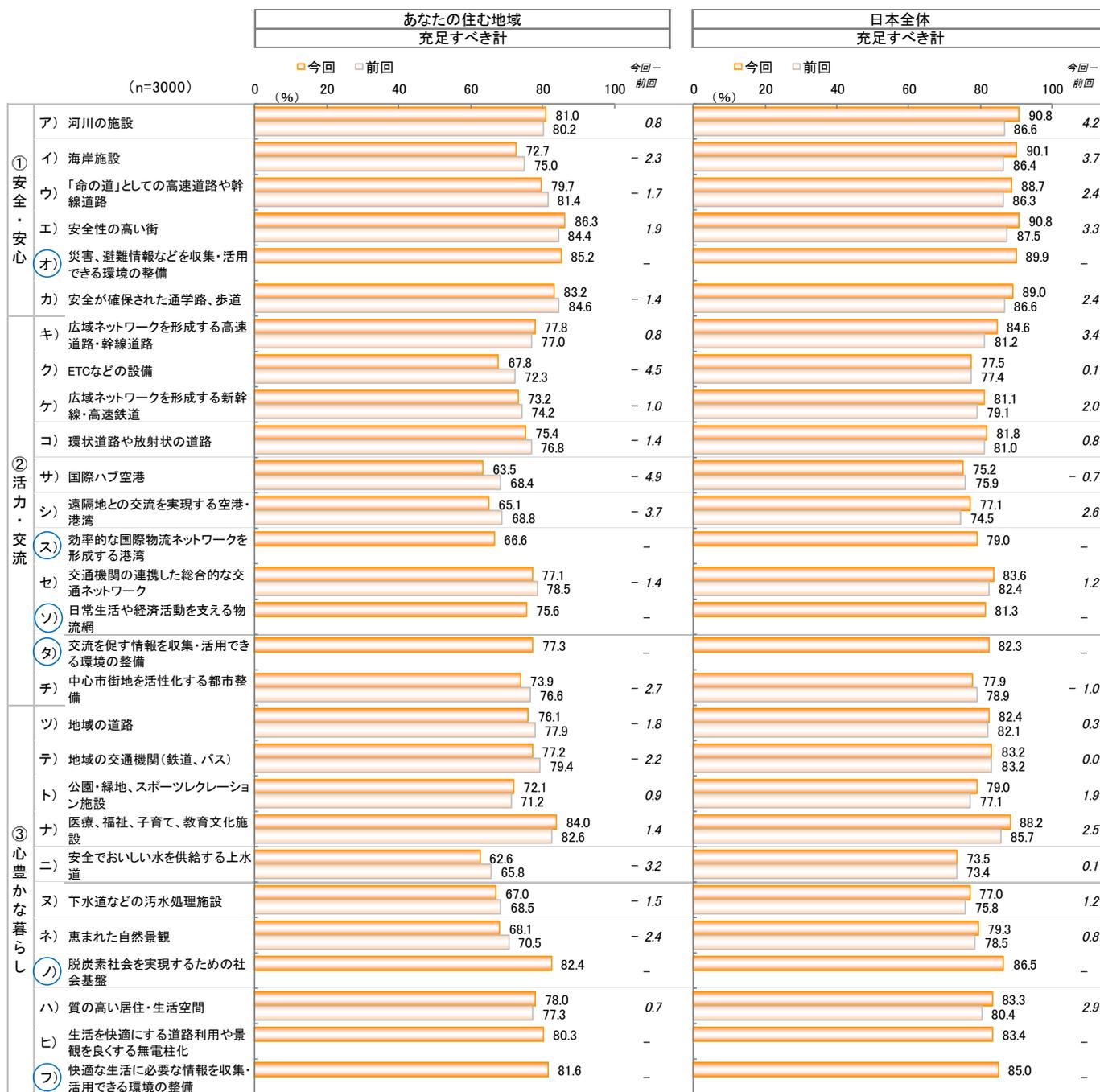
Q7-4.「日本全体」について、インフラ(社会資本)のそれぞれについてどの程度充足・整備していくべきと思いますか。(それぞれひとつだけ)

| | あなたの住む地域 | | | | 日本全体 | | | |
|------------------------------|---------------|-----------------------|-------|-------|---------------|-----------------------|-------|-------|
| | (%) | | | | (%) | | | |
| (n=3000) | 特に早急に充足していくべき | 他とのバランスを見ながら計画的に充足すべき | 現状で十分 | 充足すべき | 特に早急に充足していくべき | 他とのバランスを見ながら計画的に充足すべき | 現状で十分 | 充足すべき |
| ア) 河川の施設 | 23.7 | 57.3 | 19.0 | 81.0 | 39.3 | 51.4 | 9.2 | 90.8 |
| イ) 海岸施設 | 18.5 | 54.1 | 27.3 | 72.7 | 37.9 | 52.2 | 9.9 | 90.1 |
| ウ) 「命の道」としての高速道路や幹線道路 | 21.4 | 58.3 | 20.3 | 79.7 | 34.4 | 54.3 | 11.3 | 88.7 |
| エ) 安全性の高い街 | 27.7 | 58.6 | 13.7 | 86.3 | 35.8 | 55.0 | 9.2 | 90.8 |
| オ) 災害、避難情報などを収集・活用できる環境の整備 | 25.5 | 59.7 | 14.8 | 85.2 | 31.9 | 58.1 | 10.1 | 89.9 |
| カ) 安全が確保された通学路、歩道 | 27.0 | 56.2 | 16.8 | 83.2 | 28.5 | 60.5 | 11.0 | 89.0 |
| キ) 広域ネットワークを形成する高速道路・幹線道路 | 15.6 | 62.2 | 22.2 | 77.8 | 20.7 | 63.8 | 15.4 | 84.6 |
| ク) ETCなどの設備 | 10.0 | 57.7 | 32.2 | 67.8 | 14.2 | 63.3 | 22.5 | 77.5 |
| ケ) 広域ネットワークを形成する新幹線・高速鉄道 | 12.4 | 60.8 | 26.8 | 73.2 | 16.3 | 64.8 | 18.9 | 81.1 |
| コ) 環状道路や放射状の道路 | 12.9 | 62.6 | 24.6 | 75.4 | 16.2 | 65.6 | 18.2 | 81.8 |
| サ) 国際ハブ空港 | 10.9 | 52.6 | 36.5 | 63.5 | 16.3 | 59.0 | 24.8 | 75.2 |
| シ) 遠隔地との交流を実現する空港・港湾 | 9.9 | 55.2 | 34.9 | 65.1 | 15.0 | 62.1 | 22.9 | 77.1 |
| ス) 効率的な国際物流ネットワークを形成する港湾 | 10.2 | 56.4 | 33.4 | 66.6 | 15.3 | 63.7 | 21.0 | 79.0 |
| セ) 交通機関の連携した総合的な交通ネットワーク | 12.6 | 64.5 | 22.9 | 77.1 | 16.2 | 67.5 | 16.4 | 83.6 |
| ソ) 日常生活や経済活動を支える物流網 | 14.0 | 61.6 | 24.4 | 75.6 | 17.9 | 63.4 | 18.7 | 81.3 |
| タ) 交流を促す情報を収集・活用できる環境の整備 | 12.5 | 64.8 | 22.7 | 77.3 | 16.1 | 66.2 | 17.7 | 82.3 |
| チ) 中心市街地を活性化する都市整備 | 11.9 | 62.0 | 26.1 | 73.9 | 13.3 | 64.6 | 22.1 | 77.9 |
| ツ) 地域の道路 | 16.2 | 59.9 | 23.9 | 76.1 | 17.1 | 65.2 | 17.6 | 82.4 |
| テ) 地域の交通機関(鉄道、バス) | 17.0 | 60.2 | 22.8 | 77.2 | 18.6 | 64.6 | 16.8 | 83.2 |
| ト) 公園・緑地、スポーツレクリエーション施設 | 13.4 | 58.7 | 27.9 | 72.1 | 15.9 | 63.1 | 21.0 | 79.0 |
| ナ) 医療、福祉、子育て、教育文化施設 | 27.4 | 56.6 | 16.0 | 84.0 | 32.3 | 55.9 | 11.8 | 88.2 |
| ニ) 安全でおいしい水を供給する上水道 | 15.6 | 47.0 | 37.4 | 62.6 | 19.1 | 54.5 | 26.5 | 73.5 |
| ヌ) 下水道などの汚水処理施設 | 16.4 | 50.6 | 33.0 | 67.0 | 19.2 | 57.7 | 23.0 | 77.0 |
| ネ) 恵まれた自然景観 | 13.5 | 54.6 | 31.9 | 68.1 | 17.2 | 62.1 | 20.7 | 79.3 |
| ノ) 脱炭素社会を実現するための社会基盤 | 19.1 | 63.3 | 17.6 | 82.4 | 23.1 | 63.4 | 13.5 | 86.5 |
| ハ) 質の高い居住・生活空間 | 13.8 | 64.2 | 22.0 | 78.0 | 16.6 | 66.7 | 16.7 | 83.3 |
| ヒ) 生活を快適にする道路利用や景観を良くする無電柱化 | 14.4 | 65.9 | 19.7 | 80.3 | 16.1 | 67.4 | 16.6 | 83.4 |
| フ) 快適な生活に必要な情報を収集・活用できる環境の整備 | 13.6 | 68.0 | 18.4 | 81.6 | 17.0 | 68.0 | 15.0 | 85.0 |

■ 84%～ ■ 80%～83.9% ■ 75%～79.9% ■ 70%～74.9% ○ 新設問(2017調査にない設問)

【前回比較】

- ・ 前回調査と比較すると、前回より充足すべき計の割合が5ポイント以上増減したものはなく、比較的变化は少ない。



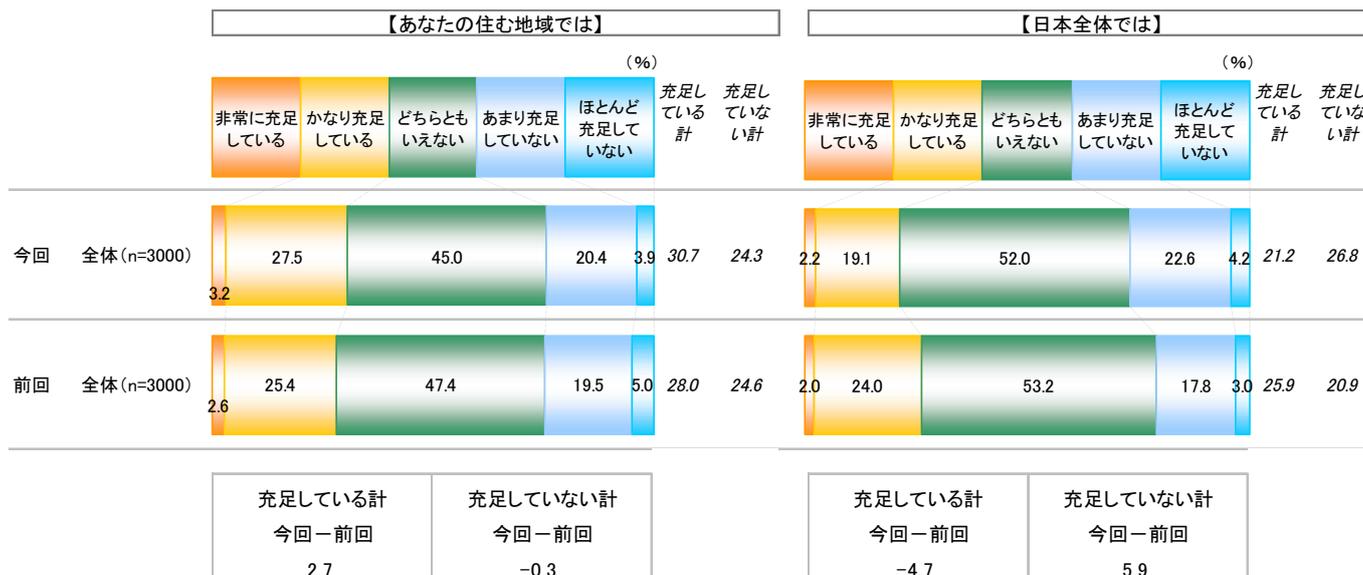
※ヒ) 生活を快適にする道路利用や景観を良くする無電柱化:2017年は2項目で聴取。(2017年項目:ノ)景観を良くするための無電柱化/ハ)カフェなど生活を快適にする道路利用)

■ 10%～ ■ 5.0%～9.9% ■ -5.0%～-9.9% ■ -10%～ ○ 新設問(2017 調査にない設問)

■社会資本の状況に関する全体評価

- ・「充足している」と「充足していない」の比率は、居住地域 30.7% > 24.3%、日本全体 21.2% < 26.8%であり、居住地域では充足しているとの回答が多いのに対し、日本全体では充足していないとの回答が多い。
- ・居住地域における評価については、地域ブロックや都市規模ごとに大きく異なる。特に、東北、中国、四国ブロックや、地方圏の30万人以下の市町村では充足していない計が充足している計を大きく上回っている。
- ・前回調査と比較すると、居住地域については、充足しているとの評価が微増している(2.7ポイント増)。一方で、日本全体については、否定的な評価が増加している。

Q8. これまで、個別のインフラ(社会資本)についてあなたのご意見を伺ってきましたが、あなたはこういったインフラ(社会資本)が、全体としてどの程度充足していると考えますか。(それぞれひとつだけ)



■居住地域に関する社会資本の全体評価 (地域ブロック別・都市規模別)

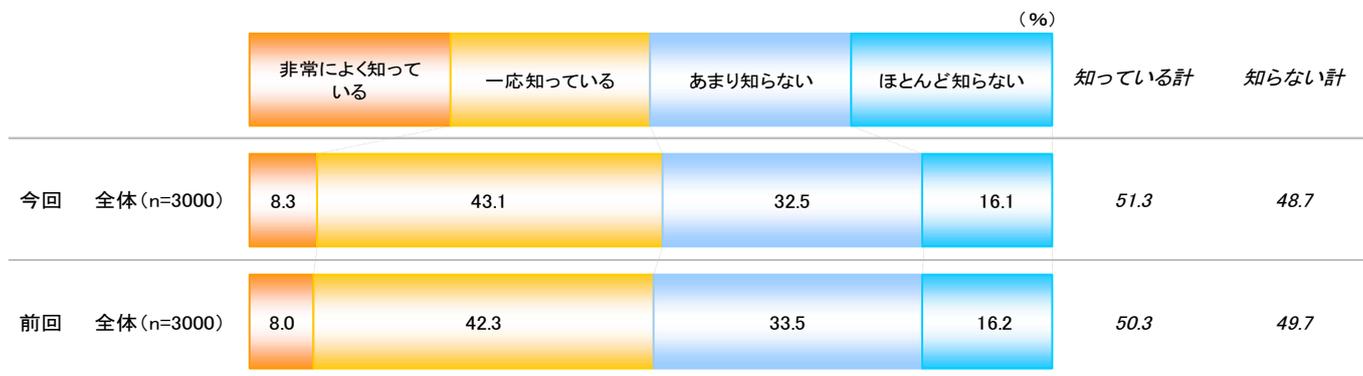
| | | 合計 | 非常に充足している | かなり充足している | どちらともいえない | あまり充足していない | ほとんど充足していない | [充足している計] | [充足していない計] |
|--------|--------------------------|------|-----------|-----------|-----------|------------|-------------|-----------|------------|
| 全体 | | 3000 | 3.2 | 27.5 | 45.0 | 20.4 | 3.9 | 30.7 | 24.3 |
| 地域ブロック | 北海道ブロック | 120 | 2.5 | 25.0 | 40.8 | 28.3 | 3.3 | 27.5 | 31.7 |
| | 東北ブロック | 210 | 3.8 | 15.7 | 41.9 | 31.9 | 6.7 | 19.5 | 38.6 |
| | 関東ブロック | 1070 | 4.1 | 33.4 | 44.9 | 14.7 | 3.0 | 37.5 | 17.7 |
| | 北陸ブロック | 120 | 3.3 | 15.8 | 50.0 | 23.3 | 7.5 | 19.2 | 30.8 |
| | 中部ブロック | 360 | 1.4 | 23.6 | 49.4 | 22.5 | 3.1 | 25.0 | 25.6 |
| | 近畿ブロック | 510 | 2.7 | 31.6 | 45.9 | 17.5 | 2.4 | 34.3 | 19.8 |
| | 中国ブロック | 180 | 1.1 | 20.0 | 43.3 | 28.9 | 6.7 | 21.1 | 35.6 |
| | 四国ブロック | 100 | 1.0 | 22.0 | 41.0 | 31.0 | 5.0 | 23.0 | 36.0 |
| | 九州・沖縄ブロック | 330 | 4.2 | 25.2 | 43.3 | 21.8 | 5.5 | 29.4 | 27.3 |
| 都市規模別 | 三大都市圏の政令指定都市及び東京23区 | 846 | 5.2 | 38.9 | 44.6 | 10.0 | 1.3 | 44.1 | 11.3 |
| | 三大都市圏の県庁所在地及び人口30万人以上の都市 | 302 | 2.3 | 36.8 | 42.1 | 14.2 | 4.6 | 39.1 | 18.9 |
| | 三大都市圏の上記以外の地域 | 499 | 1.8 | 23.2 | 47.5 | 24.0 | 3.4 | 25.1 | 27.5 |
| | 地方中核都市 | 254 | 5.9 | 35.4 | 42.1 | 14.2 | 2.4 | 41.3 | 16.5 |
| | 地方中核都市人口30万人以上の都市及び県庁所在地 | 248 | 2.8 | 19.0 | 50.0 | 24.6 | 3.6 | 21.8 | 28.2 |
| | 地方圏のその他の市 | 557 | 1.6 | 14.5 | 43.4 | 33.0 | 7.4 | 16.2 | 40.4 |
| | 地方圏の町村 | 202 | 1.0 | 19.3 | 43.1 | 31.2 | 5.4 | 20.3 | 36.6 |

■全体より10ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上低い ■全体より10ポイント以上低い

■社会資本の維持管理・更新の理解・評価(課題認知/優先性/選別の必要性/住民協力の必要性)

- ・ 社会資本の維持管理・更新費用の課題認知率は5割程度にとどまる。
- ・ 前回調査と比較すると、Q11「全てのインフラ(社会資本)を維持するのは不可能で、残すものと残さないものを分け、早めの対応をすることが必要」については肯定的回答が5ポイント以上増えている。その他の設問については、3ポイント程度以下の増減であり、大きな変化はない。

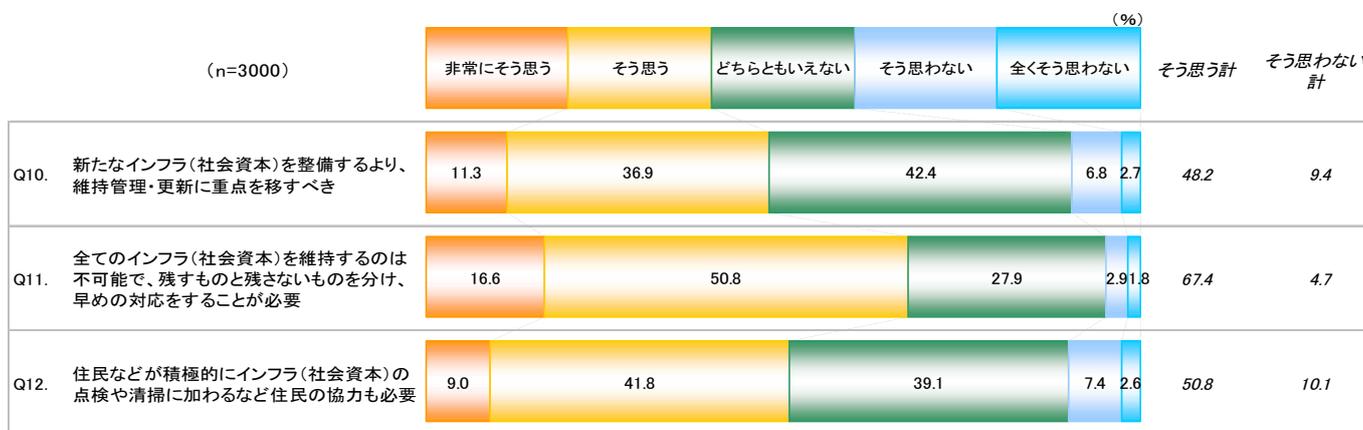
Q9. 今後、戦後の急成長期以降に急速に蓄積してきた膨大なインフラ(社会資本)が耐用年数を迎え、増加する維持管理・更新費用への対応が大きな課題となることをあなたはご存じですか。



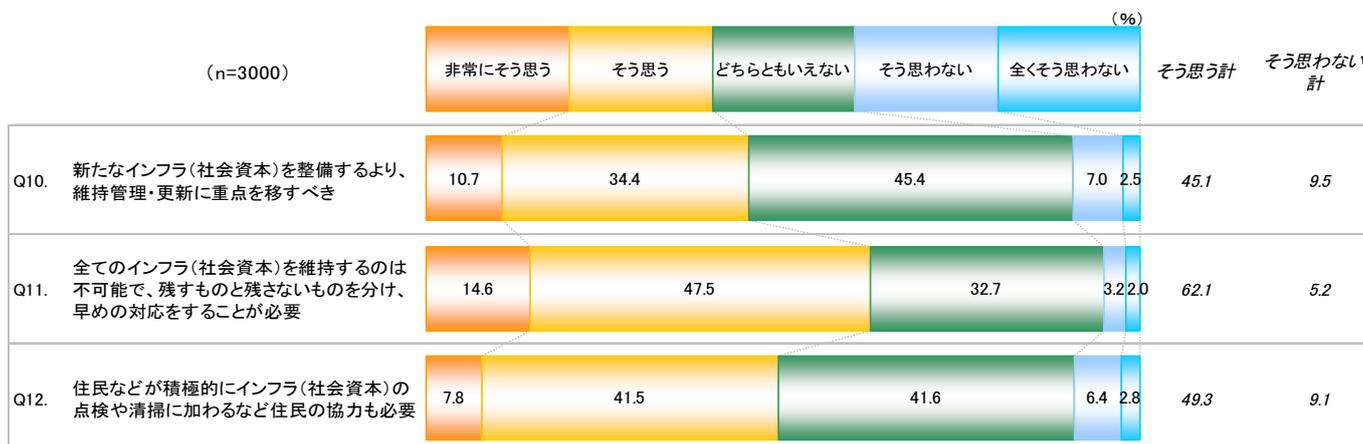
Q10. 増加する維持管理コストへの対応として、新たなインフラ(社会資本)を整備するより、維持管理・更新に重点を移すべきだとの意見がありますが、あなたはご存じですか。

Q11. インフラ(社会資本)の老朽化が急速に進行するため、全てのインフラ(社会資本)を維持するのは不可能で、残すものと残さないものを分け、早めの対応をすることが必要だとの意見がありますが、あなたはご存じですか。

Q12. インフラ(社会資本)の老朽化に的確に対応していくためには、住民などが積極的にインフラ(社会資本)の点検や清掃に加わるなど住民の協力も必要だとの意見がありますが、あなたはご存じですか。



[参考：前回調査結果]



■社会資本の維持管理・更新の課題認知【性・年代別】

- ・若い世代のほうが認知率が低い。
- ・男性より女性のほうが認知率が低い。

Q9. 今後、戦後の急成長期以降に急速に蓄積してきた膨大なインフラ(社会資本)が耐用年数を迎え、増加する維持管理・更新費用への対応が大きな課題となることをあなたはご存じですか。



性別分析:P値=0.001未満、年代別分析:P値=0.001未満

■社会資本整備のあり方、保全・整備の進め方に関する評価

- ・「災害に備えるためには、ソフト対策も重要」が、唯一、肯定的回答が8割を超え、最も肯定的回答が多い。
- ・その他の項目(「中長期の全体像を描いた上で財源をきちんと確保し、計画的効率的に進めること」、「新型コロナウイルス感染症発生により生じた国民意識や国民生活の変化に対応していくことが重要」、「安全・安心を高める社会資本整備を重点的に進めるべき」、「インフラの強度や機能などに余裕を持たせ、安全度を高めるべき」など)についても、肯定的な回答が多い(5割~7割程度)。

以下のような意見がありますが、あなたはどう思われますか？

- Q13. 気候変動による災害の頻発化、巨大地震発生の可能性の増大などに対応するため、安全・安心を高める社会資本整備を重点的に進めるべき
 Q14. 東日本大震災などで、国土の脆弱性が明らかになった日本にとって、強しなやかな国民生活の実現のため、国土を強靱化することは重要だ
 Q15. 自然災害などは、予想以上の規模で発生したり、短い時間で続けて起こるなど不確実性があるため、インフラ(社会資本)の強度や機能などに余裕を持たせ、安全度を高めるべき
 Q16. 災害に備えるためには、インフラの整備(ハード対策)も重要だが、防災訓練やハザードマップの理解・活用などのソフト対策も重要
 Q17. 日本の経済活力を維持、成長を促進するため、移動時間の短縮、輸送費の低下、企業立地や設備投資の誘発など、生産拡大効果のある社会資本整備を重点的に進めるべきだ
 Q18. 災害からの復旧・復興にあたり、専門的知識・技能を持った国の職員を迅速に派遣する体制(ex「TECフォース」)を強化することが必要だ
 Q19. 人口密度が高いほど効率化により都市施設の維持管理費が少なくなるので、住む人や都市施設を集め、人口密度の高いコンパクトシティを形成し、それらを道路などのネットワークで結びつけて、地方の成長を促し、人口減少を克服することを進めるべきだ
 Q20. 感染症等も含めた自然災害等に対するリスクを減らすため、また、地方の文化・風土・伝統などの多様性を保持するため、人口や機能を分散させた国土づくりを行うべき
 Q21. これからのインフラ(社会資本)の保全整備にあたっては、PPP(官民連携)、PFI(民間の資金、経営能力等を活用する手法など)を取り入れ、民間事業者のノウハウ等を活用することで、効率化、コスト削減、人件費の削減等を実現することが必要だ
 Q22. 人々の価値観や行動が大きく変化し、多様化していることを踏まえ、社会資本整備においても、その整備方針・手順について住民、地域の意見等を十分に取り入れ、価値観の共有と協働作業が行えるような仕組みを作っていくべきだ
 Q23. 社会全体の安全性を高める施設等を整備するにあたって、必要が生じた場合、土地利用などの私権が制限されるのは止むを得ない
 Q24. 高速道路、幹線道路が救急搬送や災害時に救援物資の運搬等に用いる「命の道」の役割も果たす、といった例も踏まえ、社会資本整備にあたっては、効率の観点だけでなく、公平の観点も重視すべきだ
 Q25. これからのインフラ(社会資本)の保全整備にあたっては、新型コロナウイルス感染症発生により生じた国民意識や国民生活の変化に対応していくことが重要である
 Q26. これからのインフラ(社会資本)の保全整備にあたっては、資源・エネルギーの再利用やCO2の削減など、脱炭素社会を実現するための取り組みをより一層推進していくべき
 Q27. これからのインフラ(社会資本)の保全整備にあたっては、コスト削減やサービス水準向上のために、自動車の自動運転技術やドローンによる施設点検技術など新技術の開発と導入を積極的に進めることが必要である
 Q28. インフラメンテナンスの分野で、日本の優れた技術は世界で十分に競争する力がある。こういった優れた日本のインフラ技術を世界に輸出し、国際貢献するとともに日本の活力強化にもつなげるべきだ
 Q29. インフラ(社会資本)の保全整備にあたっては、中長期の全体像を描いた上で財源をきちんと確保し、計画的効率的に進めることが必要である

| (n=3000) | | (%) | | | | | そう思う計 | そう思わない計 |
|----------|--|---------|------|-----------|--------|----------|-------|---------|
| | | 非常にそう思う | そう思う | どちらともいえない | そう思わない | 全くそう思わない | | |
| Q13. | 安全・安心を高める社会資本整備を重点的に進めるべき | 22.2 | 49.6 | 24.3 | 2.4 | 1.5 | 71.8 | 3.9 |
| Q14. | 国土を強靱(きょうじん)化することは重要 | 22.4 | 46.8 | 25.8 | 3.6 | 1.5 | 69.1 | 5.1 |
| Q15. | インフラの強度や機能などに余裕を持たせ、安全度を高めるべき | 20.4 | 50.6 | 24.9 | 2.8 | 1.2 | 71.0 | 4.0 |
| Q17. | 生産拡大効果のある社会資本整備を重点的に進めるべき | 10.5 | 40.7 | 41.4 | 5.8 | 1.6 | 51.2 | 7.4 |
| Q18. | 専門的知識・技能を持った国の職員を迅速に派遣する体制を強化することが必要 | 15.5 | 46.1 | 33.2 | 3.7 | 1.6 | 61.6 | 5.2 |
| Q19. | コンパクトシティを形成するなど、地方の成長を促し、人口減少を克服することを進めるべき | 11.8 | 35.0 | 40.1 | 10.7 | 2.4 | 46.7 | 13.1 |
| Q20. | 人口や機能を分散させた国土づくりを行うべき | 12.4 | 41.9 | 38.0 | 5.8 | 1.9 | 54.3 | 7.8 |
| Q21. | 民間事業者のノウハウ等を活用することで、効率化、コスト削減、人件費の削減等を実現する | 15.2 | 47.4 | 32.3 | 3.7 | 1.3 | 62.7 | 5.1 |
| Q22. | 住民、地域の意見等を十分に取り入れ、価値観の共有と協働作業が行えるような仕組み | 12.0 | 49.6 | 32.8 | 4.3 | 1.3 | 61.6 | 5.6 |
| Q23. | 必要が生じた場合、土地利用などの私権が制限されるのは止むを得ない | 11.7 | 44.2 | 35.3 | 7.3 | 1.5 | 55.9 | 8.7 |
| Q24. | 社会資本整備にあたっては、効率の観点だけでなく、公平の観点も重視すべき | 10.9 | 49.0 | 34.6 | 4.3 | 1.3 | 59.8 | 5.6 |
| Q25. | 新型コロナにより生じた国民意識や国民生活の変化に対応していく | 22.2 | 47.4 | 24.8 | 4.0 | 1.6 | 69.6 | 5.6 |
| Q26. | 脱炭素社会を実現するための取り組みをより一層推進していくべき | 15.6 | 43.9 | 31.6 | 5.7 | 3.2 | 59.5 | 8.9 |
| Q27. | 自動運転技術やドローンによる施設点検技術など新技術の開発と導入を積極的に進める | 17.6 | 47.0 | 30.7 | 3.3 | 1.4 | 64.6 | 4.7 |
| Q28. | 日本のインフラ技術を世界に輸出し、国際貢献するとともに日本の活力強化にもつなげるべき | 18.1 | 46.2 | 29.8 | 4.2 | 1.7 | 64.3 | 5.9 |
| Q29. | 中長期の全体像を描いた上で財源をきちんと確保し、計画的効率的に進めることが必要 | 20.9 | 49.9 | 24.4 | 3.3 | 1.5 | 70.9 | 4.8 |

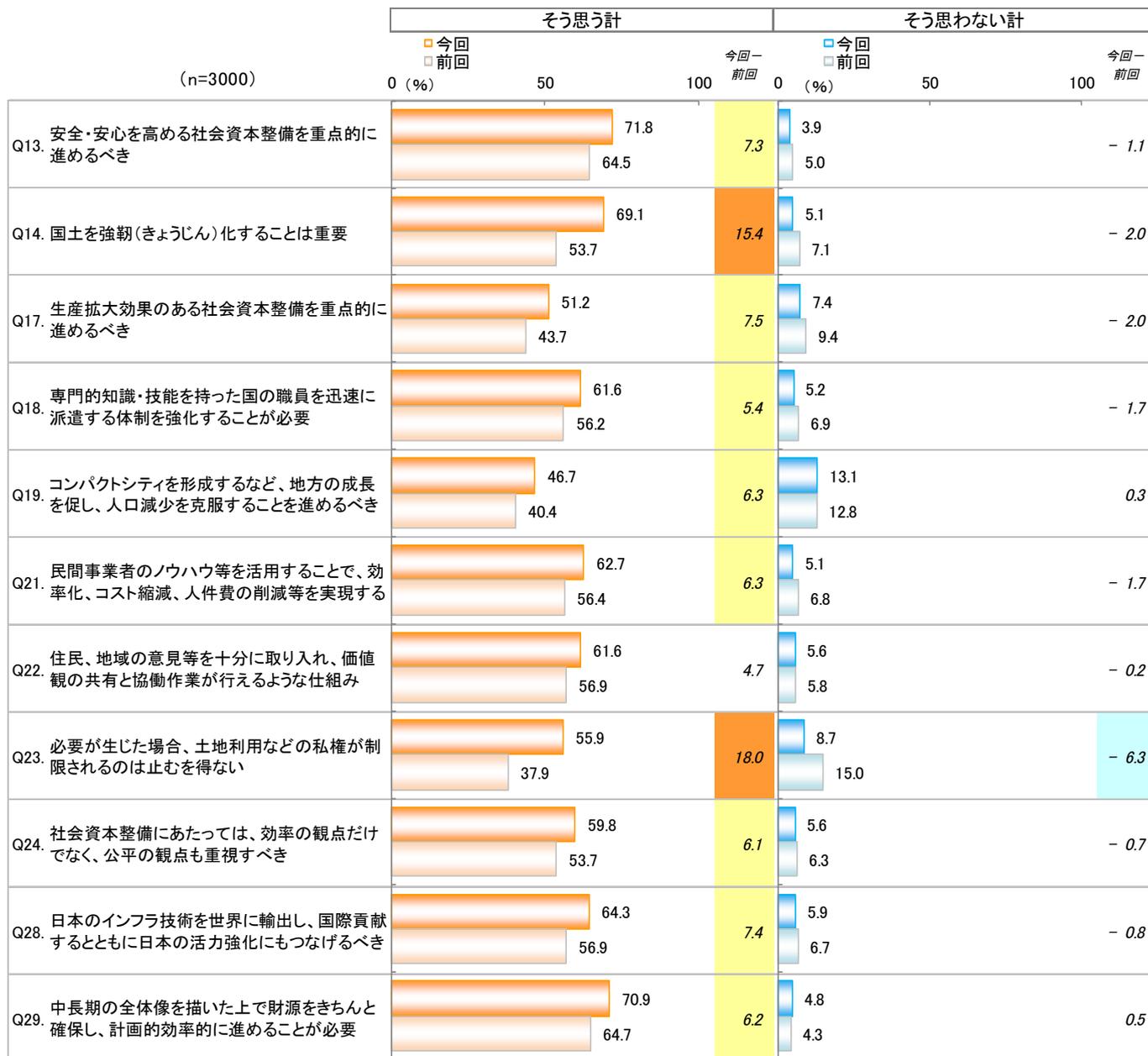
| (n=3000) | | (%) | | | | そう思う計 | そう思わない計 |
|----------|---------------------|------------------|-------------------|-----------|--------|-------|---------|
| | | そう思うし、自らも取り組んでいる | そう思うが、自らは取り組んでいない | どちらともいえない | そう思わない | | |
| Q16. | 災害に備えるためには、ソフト対策も重要 | 20.0 | 62.6 | 15.0 | 2.3 | 82.6 | 2.3 |

■ 60%~ ■ 55%~59.9% ■ 50%~54.9% ■ 40%~49.9%

○ 新設問(2017調査にない設問)

【前回比較】

・ 前回調査との比較については、いずれの項目についても、肯定的な回答が5ポイント程度以上増加している。特に「必要が生じた場合、土地利用などの私権が制限されるのは止むを得ない」「国土を強靱化することは重要」の2項目が15ポイント以上と大幅に増加している。



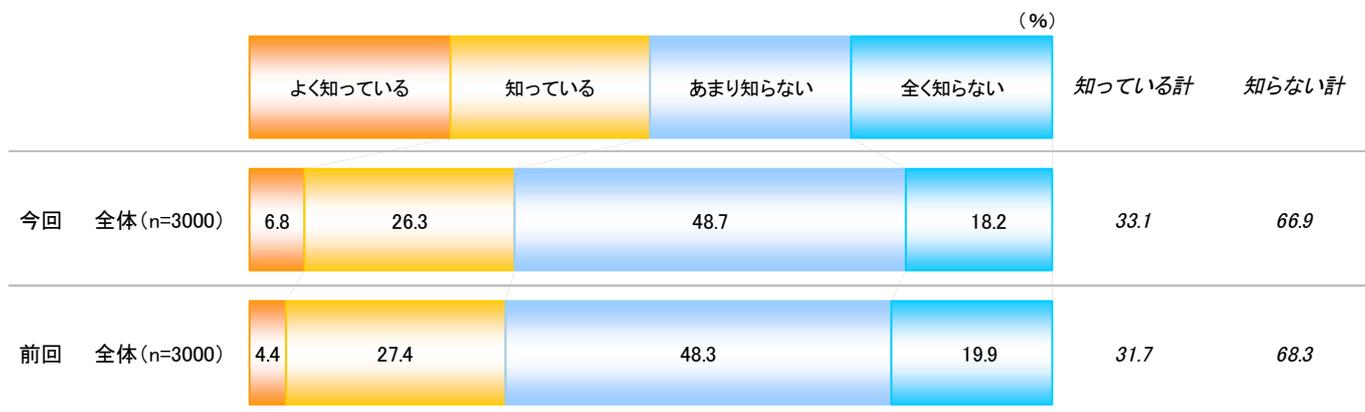
■ 10%～ ■ 5.0%～9.9% ■ -5.0%～-9.9% ■ -10%～

■アメリカやヨーロッパ諸国での道路等のインフラ投資を増大させる動きに関する認知

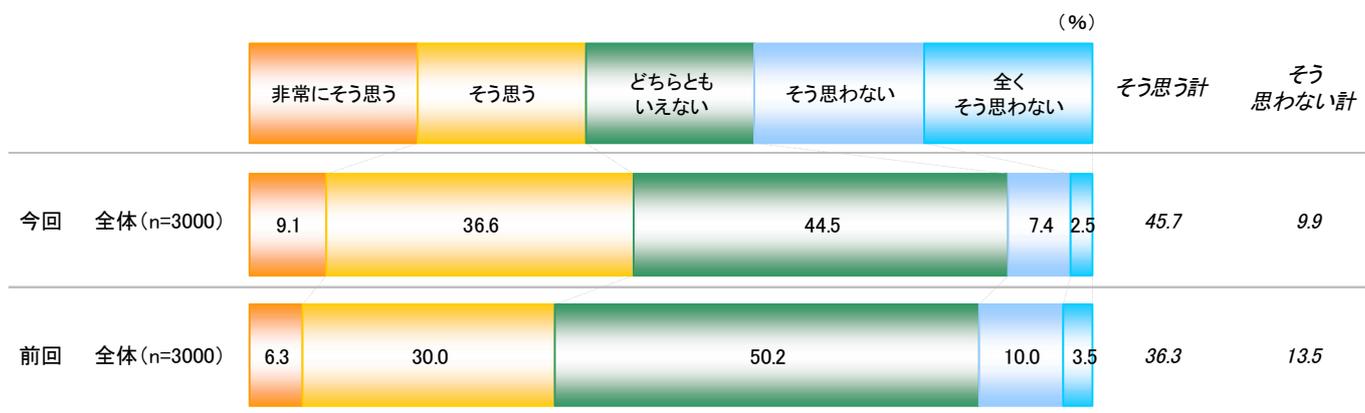
- ・ 欧米で、インフラ投資を増大させる動きがあることを認知しているのは3割程度と低い(前回調査と同程度)。
- ・ 日本もインフラ投資を増やすべきだという意見に対し、肯定的な回答が前回調査と比較して9.4ポイント増加している。

Q30. アメリカやヨーロッパ諸国などでは、新型コロナウイルス感染症の影響から回復するための経済・社会活動の活性化や温室効果ガス削減などのため、インフラ投資を増大させる動きがありますが、ご存じですか。

(前回) Q24. アメリカのトランプ大統領が1兆ドル(約110兆円)をインフラ整備に使うことを表明するなど、アメリカやヨーロッパ諸国では、安全性を高め、経済活力を維持・増進するため、道路等のインフラ投資を増大させる動きがありますが、ご存じですか。



Q30-1. 日本もインフラの機能を維持し、安全性を高め、また経済活力を維持・増進させるためにインフラへの投資額を増やすべきだという意見がありますが、あなたはどのように思いますか。



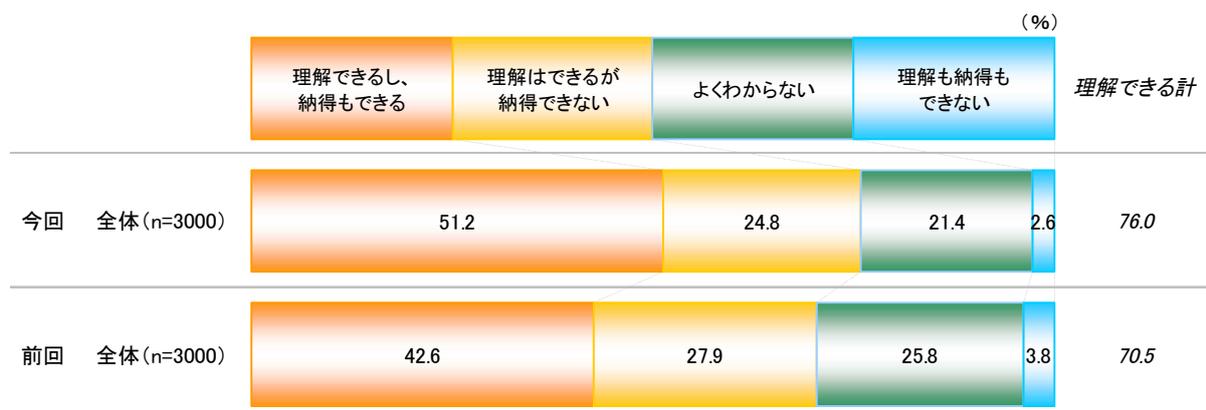
■災害が発生しやすい日本の過酷な自然条件、それに伴う施設整備費用増加に関する認知

- ・日本の自然条件が過酷であることに、回答者の8割弱が認知。それに伴い、施設整備に費用がかさむことに理解を示す層は4分の3を超えるが、「理解できるが、納得できない」も4分の1程度存在。
- ・前回調査との比較については、「日本の自然条件が過酷であることに関する認知」が4.6ポイント、「施設整備に費用がかさむことに理解かつ納得できる」が8.6ポイント増加している。

Q31. 日本は、外国と比べ山地が多く、海岸線が長く、台風、大雨、洪水、地震、火山噴火などの災害が発生しやすいなどの特徴を持っています。あなたは、このことをご存じですか。



Q31-1. そのために、急峻な地形での工事が必要だったり、地震等に備えるため、頑丈な施設を整備しなければならないなど、欧米諸国に比べて施設整備に費用がかさみます。あなたは、このことについてどのように思いますか。



■災害が発生しやすい日本の過酷な自然条件、それに伴う施設整備費用増加に関する認知【性・年代別】

・若い世代の方が、認知率が低い傾向にある。

Q31. 日本は、外国と比べ山地が多く、海岸線が長く、台風、大雨、洪水、地震、火山噴火などの災害が発生しやすいなどの特徴を持っています。あなたは、このことをご存じですか。

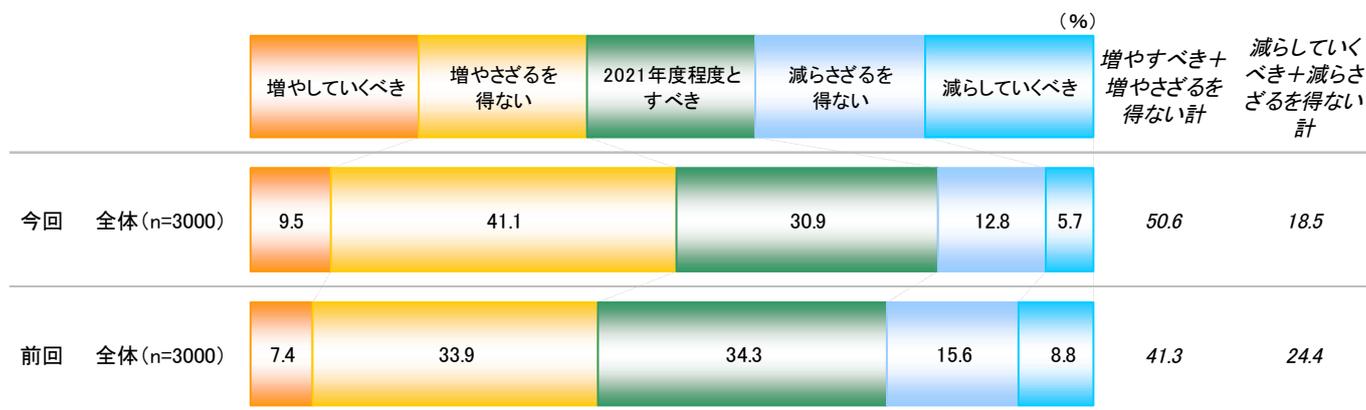


性別分析:P 値=0.017、年代別分析:P 値=0.001 未満

■公共事業予算の今後の増減評価

・増やす計は 50.6%、「2021 年度程度とすべき」は 30.9%、減らす計は 18.5%となっている。
 ・前回調査との比較については、増やす計は 9.3 ポイント増加、「2021 年度程度とすべき」は 3.4 ポイント減少、減らす計は 5.9 ポイント減少となっている。

Q32. あなたは、今後の公共事業の予算をどうすべきだと思いますか。上記の結果も見た上でお答えください。



※前回は平成29年度程度とすべき

■居住地域がなりそうであると予測される姿となるべき姿_1< 衰退 ⇄ 成長 >

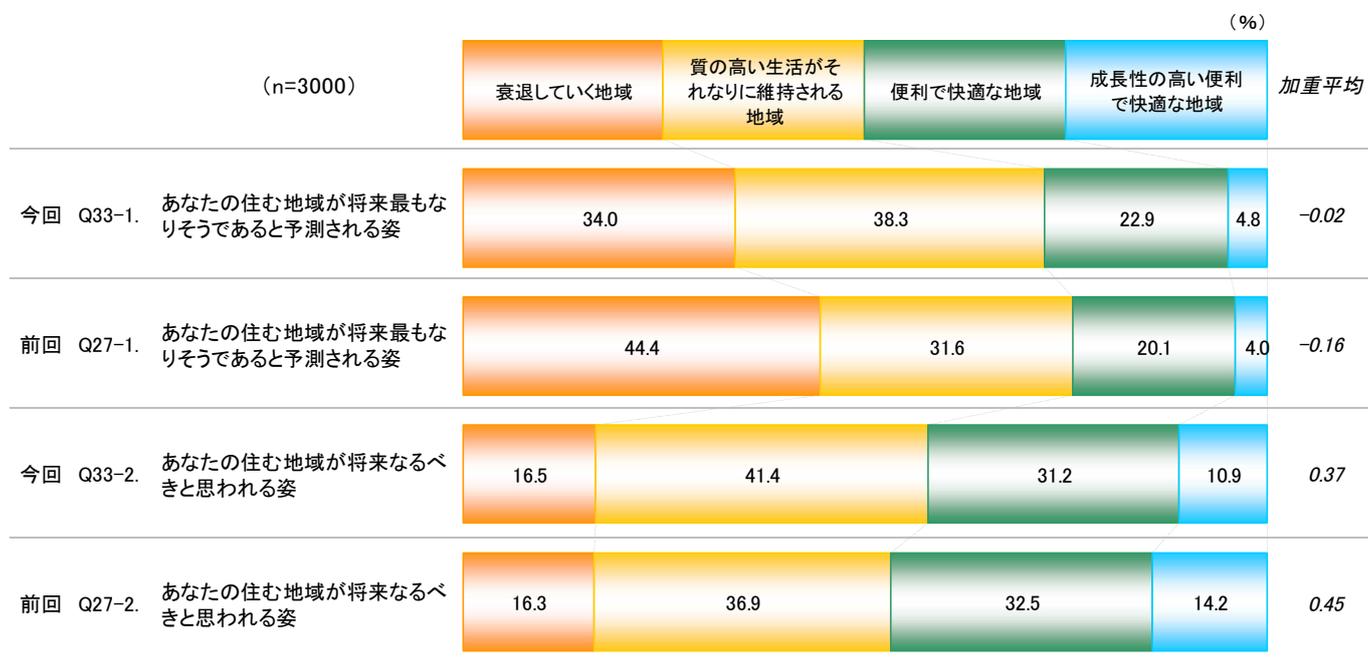
- ・ 将来予測となるべき姿で大きなギャップがある。(「衰退する地域」なりそう 34.0%(>なるべき 16.5%)、「成長する地域」なりそう 4.8%(<なるべき 10.9%)
- ・ 前回調査との比較については、将来予測は悲観的予測が減り(「衰退する地域」が 10.4 ポイント減)、なるべき姿は成長を希望する回答が増えている(「成長する地域」が 0.8 ポイント増)。

Q33. あなたの住む地域(2050 年前後を想定)について、次のような意見(見方)があります。

1. **衰退していく地域** 少子化・高齢化が進み、地域経済の衰退、中心市街地でも空き店舗が生じたり、空き家も増え、公共交通機関もなくなるなど、徐々に衰退していく
2. **質の高い生活がそれなりに維持される地域** 少子化・高齢化が進むが、地域の産業・経済を維持・活性化する動きや、各種の施設を特定の地域とまとめるコンパクト化を進めることなどにより、それなりに質の高い生活が維持される
3. **便利で快適な地域** 少子化・高齢化は進むが、地域の産業・経済は、新たな産業が生まれることにより活性化し、交通ネットワークが確保された便利で快適な地域となる
4. **成長性の高い便利で快適な地域** 地域社会に新たな成長産業などが生まれ、新たな居住者が流入、新たな産業なども生まれ、交通ネットワークなどはより良くなり、生産性が向上、活力のある成長性の高い、より便利で快適な地域となる

Q33-1.あなたの住む地域が将来最もなりそうであると予測される姿はどれですか。

Q33-2.あなたの住む地域が将来なるべきと思われる姿はどれですか。



■日本がなりそうであると予測される姿となるべき姿__1< 衰退 ⇄ 成長 >

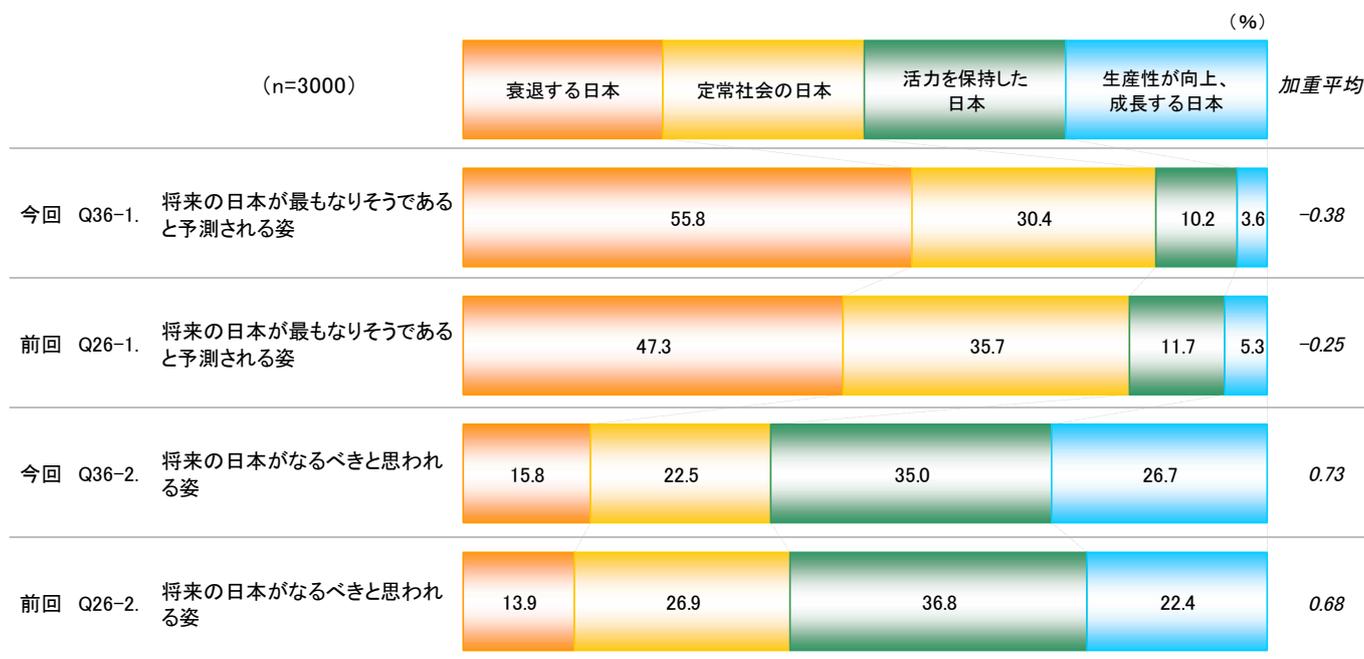
- ・ 将来予測となるべき姿でギャップがあり、その差は居住地域よりも大きい。「(「衰退する日本」なりそう 55.8% (>なるべき 15.8%)、「成長する日本」なりそう 3.6% (<なるべき 26.7%))
- ・ 居住地域と比較すると、将来予測については、より悲観的であり(「衰退する地域」34.0% <「衰退する日本」55.8%)、なるべき姿については成長を希望する割合が大きい(「成長する地域」10.9% <「成長する日本」26.7%)。
- ・ 前回調査との比較については、将来予測は悲観的予測が増え(「衰退する日本」が 8.5 ポイント増)、なるべき姿は成長を希望する回答が増えている(「成長する日本」が 4.3 ポイント増)。

Q36. 日本の将来(2050 年前後を想定)について、次のような意見(見方)があります。

1. **衰退する日本** 少子化・高齢化が進み、激化する国際競争の下、世界の中で現在の位置は保ち得ず、経済成長もマイナス気味となり、徐々に衰退していく
2. **定常社会の日本** 少子化・高齢化が進むが、女性の社会進出、技術革新、国民の努力もあって、経済成長がプラスマイナス0%といった「定常社会」となり、世界の中での位置も保ち、それなりに質の高い生活を維持する
3. **活力を保持した日本** 少子化・高齢化にも係わらず、女性の社会進出、技術革新、経済構造の改革、経営革新などにより、一定の成長を実現、世界の中での位置も保った、活力を保持した日本となる
4. **生産性が向上、成長する日本** 少子化・高齢化にも係わらず、女性の社会進出が進むことで、生産年齢人口が確保され、技術革新や経済構造の改革による生産性の更なる向上が図られ、経済に経営革新の、更なる進展などにより、高い成長を実現、世界の中での位置も高まる、活力ある日本となる

Q36-1. 将来の日本が最もなりそうであると予測される姿はどれですか。

Q36-2. 将来の日本がなるべきと思われる姿はどれですか。



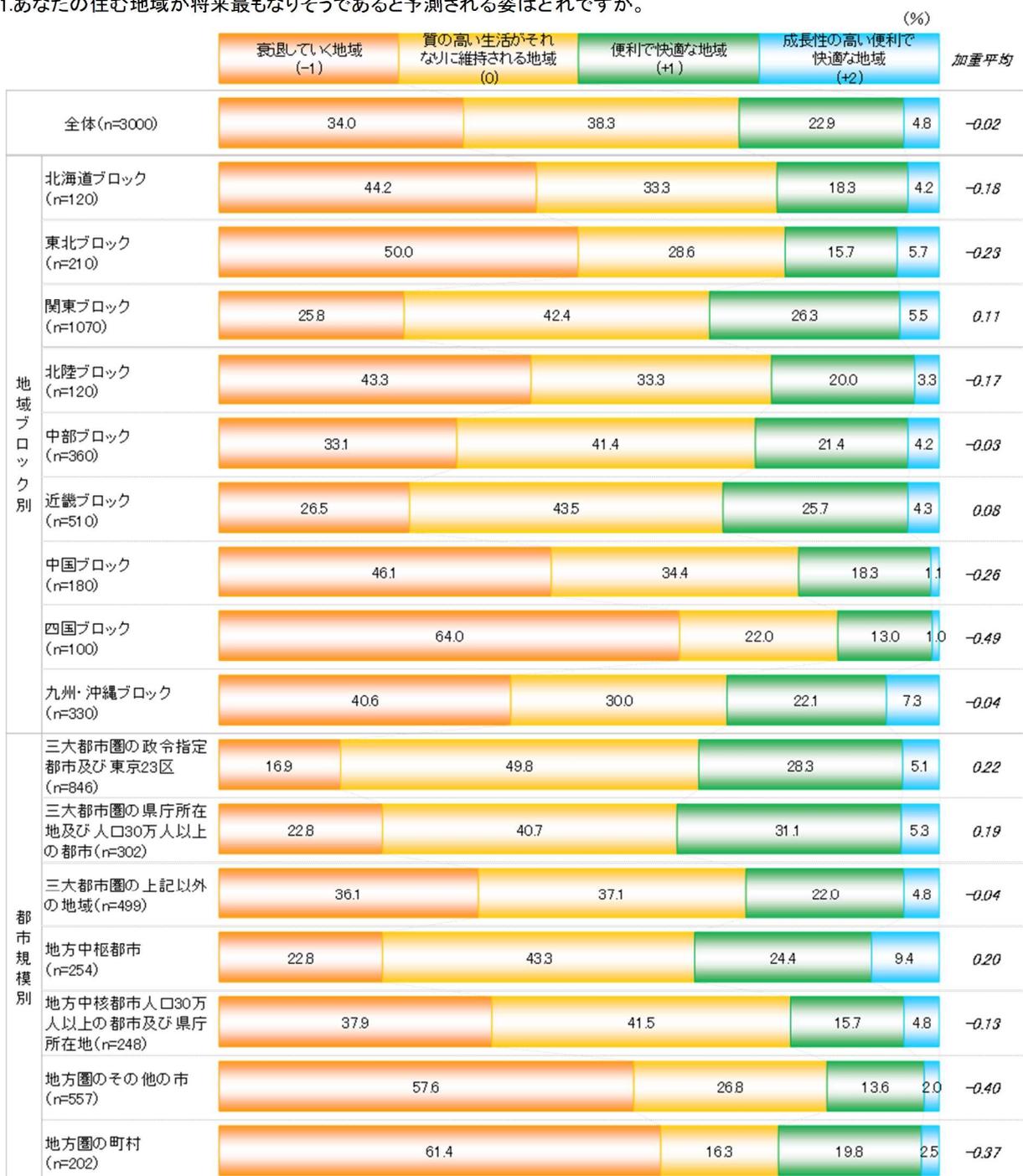
■居住地域がなりそうであると予測される姿_1<衰退 ⇄ 成長>【地域ブロック別、都市規模別分析】

- ・ 地域ブロック別で予測が大きく異なる。四国、中国、東北、北海道が悲観的。
- ・ 都市規模別でも予測が大きく異なる。地方圏の30万人以下の市町村(県庁所在地を除く)が特に悲観的。

Q33. あなたの住む地域(2050年前後を想定)について、次のような意見(見方)があります。

1. **衰退していく地域** 少子化・高齢化が進み、地域経済の衰退、中心市街地でも空き店舗が生じたり、空き家も増え、公共交通機関もなくなるなど、徐々に衰退していく
2. **質の高い生活がそれなりに維持される地域** 少子化・高齢化が進むが、地域の産業・経済を維持・活性化する動きや、各種の施設を特定の地域とまとめるコンパクト化を進めることなどにより、それなりに質の高い生活が維持される
3. **便利で快適な地域** 少子化・高齢化は進むが、地域の産業・経済は、新たな産業が生まれることにより活性化し、交通ネットワークが確保された便利で快適な地域となる
4. **成長性の高い便利で快適な地域** 地域社会に新たな成長産業などが生まれ、新たな居住者が流入、新たな産業なども生まれ、交通ネットワークなどはより良くなり、生産性が向上、活力のある成長性の高い、より便利で快適な地域となる

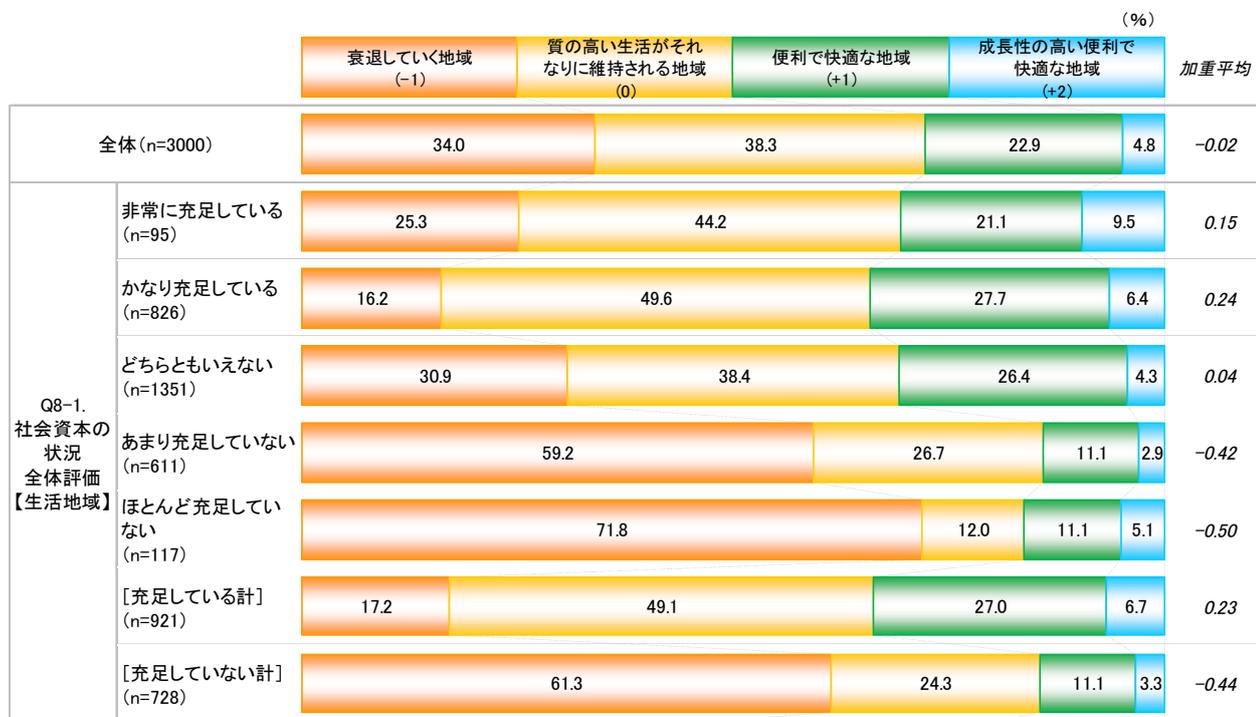
Q33-1.あなたの住む地域が将来最もなりそうであると予測される姿はどれですか。



■居住地域がなりそうであると予測される姿__1<衰退 ⇄ 成長>【Q8 社会資本の全体評価別とのクロス分析】

- ・ 社会資本に関する充足度評価と将来予測に相関が見られる。
- ・ 居住地域について、社会資本の充足度が低いと評価した者のほうが、充足度が高いと評価した者より、将来予測について悲観的である。

Q33-1.あなたの住む地域が将来最もなりそうであると予測される姿はどれですか。



P 値=0.001 未満

■日本がなりそうであると予測される姿__1<衰退 ⇄ 成長>【性・年代別分析】

- ・ 日本の将来予測について、若い世代のほうが悲観的である。

Q36-1.将来の日本が最もなりそうであると予測される姿はどれですか。



性別分析:P 値=0.162 、年代別分析:P 値=0.001

■地域の将来予測<衰退-成長>(Q33-1)<Q49 世帯年収別>

・ 居住地域の将来予測について、世帯収入が少ないほど悲観的である。

Q33-1.あなたの住む地域が将来最もなりそうであると予測される姿はどれですか。



P 値=0.001 未満

■居住地域がなりそうであると予測される姿_1<衰退 ⇄ 成長> 【新型コロナによる変化(Q3-1)との相関】

<分析方法>

① Q3-1.新型コロナウイルス感染症の発生を受けての変化の設問の選択を以下のように分類

プラス項目

- 1.テレワーク等の普及により、通勤時間が減るなどし、余暇の過ごし方が充実した
- 4.家族とのコミュニケーションが増え、繋がりが強まった

マイナス項目

- 2.仕事が減り(もしくは失業し)、生活が苦しくなった
- 3.旅行、外食、買い物などで外出する機会が減った
- 5.友人や知人などのコミュニケーションが減り、繋がりが弱まった
- 6.対面での会合・コミュニケーションや外出が減少し、学習や情報を得る機会が減った
- 7.自分・家族・知人の健康や医療体制に対する不安が強くなった

プラスでもマイナスでもない項目

- 8.感染症等を含めた自然災害等のリスクを軽減するため、生活拠点を都市部以外としたいと考えるようになった
- 9.変化がない
- 10.その他:

② 回答者ごとに、選択したプラス項目とマイナス項目の数によって以下のように類型化

プラス項目1個以上

プラス項目もマイナス項目もなし

プラス項目なし&マイナス項目2個以下

プラス項目なし&マイナス項目3個以上

<結果>

・ 居住地域の将来予測について、コロナによる変化で悪影響があったとの回答項目数が多いほど悲観的。

| | | Q33-1 あなたの住む地域が将来最もなりそうであると予測される姿 (%) | | | |
|-----------------------------|-----------------------------|---------------------------------------|-------------------------|---------------|---------------------|
| | | 衰退していく地域 (-1) | 質の高い生活がそれなりに維持される地域 (0) | 便利で快適な地域 (+1) | 成長性の高い便利で快適な地域 (+2) |
| 全体 (n=3000) | | 34.0 | 38.3 | 22.9 | 4.8 |
| Q3-1 新型コロナウイルス感染症の発生を受けての変化 | プラス項目1個以上 (n=839) | 26.8 | 45.5 | 22.8 | 4.9 |
| | プラス項目もマイナス項目もなし (n=357) | 31.7 | 28.0 | 31.9 | 8.4 |
| | プラス項目なし&マイナス項目2個以下 (n=1091) | 37.6 | 38.0 | 20.3 | 4.1 |
| | プラス項目なし&マイナス項目3個以上 (n=713) | 38.3 | 35.2 | 22.6 | 3.9 |

■地域がなりそうであると予測される姿となるべき姿_2 < 社会課題に関する受動 ⇄ 能動 >

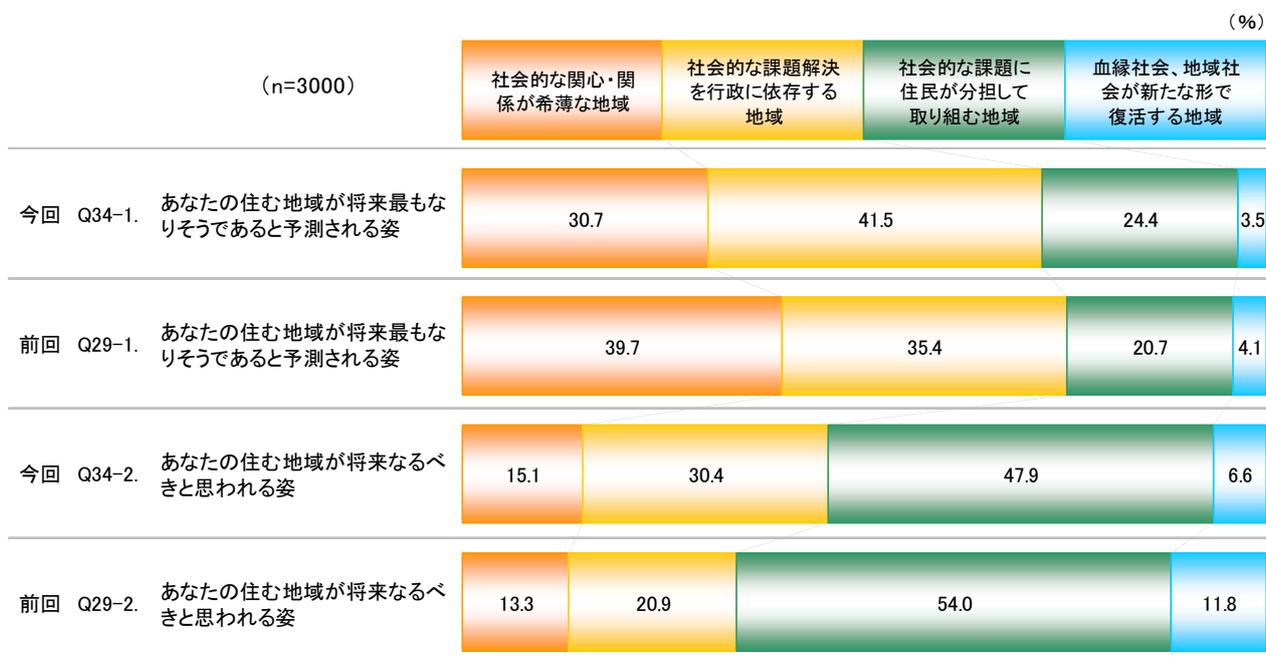
- ・ 将来予測となるべき姿でギャップがある。「社会的な関心・関係が希薄な地域」なりそう 30.7%(>なるべき 15.1%)、「住民が分担して取り組む地域」なりそう 24.4%(<なるべき 47.9%)
- ・ 前回調査との比較については、将来予測では「社会的な関心・関係が希薄な地域」が大きく減っており(9.0ポイント減)、なるべき姿では「社会的な課題解決を行政に依存する地域」が大きく増えている(9.5ポイント増)。
- ・ 「社会的な課題解決を行政に依存する地域」が大きく増えている理由としては、災害の激甚化、新型コロナウイルス感染症の発生、地球温暖化の進行など、個人だけでは対応困難な課題が山積する中、公共の果たす役割への期待が高まっているものと推測される。

Q34. あなたの住む地域(2050年前後を想定)について、次のような意見(見方)があります。

1. **社会的な関心・関係が希薄な地域** 必要な情報はネットかSNSから入手、自分にとって意味、興味のあることには反応するが、そうでないものに対しては社会的な関心も興味も示さない個人のことしか考えない地域社会が形成される
2. **社会的な課題解決を行政に依存する地域** 各個人の価値観や規範に基づく個人主義的な社会になり、社会的な問題には一定の理解を行うものの、具体的な行動などは起こさず、行政に委ねる地域社会が形成される
3. **社会的な課題に住民が分担して取り組む地域** 社会の様々な課題に対し、行政に依存するのではなく、住民や NPO が社会産業(ソーシャルビジネス)を立ち上げ、行政と住民が分担して解決に取り組む地域社会となる
4. **血縁社会、地域社会が新たな形で復活する地域** 地域の風土や文化が見直され、伝統的な血縁社会、地域社会が新たな形で復活する地域社会となる

Q34-1.あなたの住む地域が将来最もなりそうであると予測される姿はどれですか。

Q34-2.あなたの住む地域が将来なるべきと思われる姿はどれですか。



■日本の将来予測、なるべき姿_2 < 社会課題に関する受動 ⇄ 能動 >

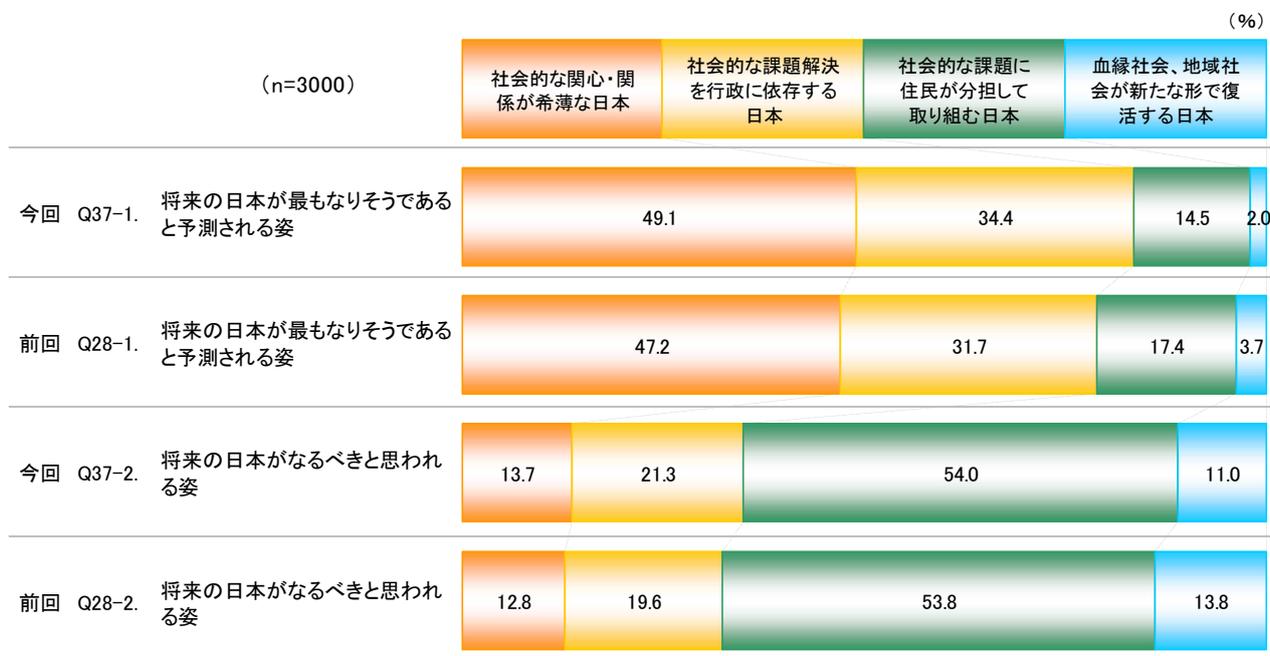
- ・ 将来予測となるべき姿でギャップがあり、その差は居住地域よりも大きい。「社会的な関心・関係が希薄な日本」なりそう 49.1%(>なるべき 13.7%)、「住民が分担して取り組む日本」なりそう 14.5%(<なるべき 54.0%)
- ・ 居住地域と比較すると、将来予測については「社会的な関心・関係が希薄」の割合が多く(日本全体 49.1% >居住地域 30.7%)、なるべき姿については「社会的な課題に住民が分担して取り組む」の割合が多い(日本全体 54.0% >居住地域 47.9%)。
- ・ 前回調査との比較については、将来予測・なるべき姿のいずれの選択肢も変動は3ポイント未満である。

Q37 日本の将来(2050年前後を想定)について、次のような意見(見方)があります。

1. **社会的な関心・関係が希薄な日本** 必要な情報はネットかSNSから入手、自分にとって意味、興味のあることには反応するが、そうでないものに対しては社会的な関心も興味も示さない個人のことしか考えない社会が形成される日本
2. **社会的な課題解決を行政に依存する日本** 各個人の価値観や規範に基づく個人主義的な社会になり、社会的な問題には一定の理解を行うものの、具体的な行動などは起こさず、行政に委ねる社会が形成される日本
3. **社会的な課題に住民が分担して取り組む日本** 社会の様々な課題に対し、行政に依存するのではなく、住民やNPOが社会産業(ソーシャルビジネス)を立ち上げ、行政と住民が分担して解決に取り組むような社会が形成される日本
4. **血縁社会、地域社会が新たな形で復活する日本** 地域の風土や文化が見直され、伝統的な血縁社会、地域社会が新たな形で復活し、生活・社会行動の基盤となるような日本

Q37-1. 将来の日本が最もなりそうであると予測される姿はどれですか。

Q37-2. 将来の日本がなるべきと思われる姿はどれですか。



■日本の全体的な社会資本の充足度評価(Q8-2)と日本の将来予測<衰退—成長>(Q36-1)の相関分析

- ・ 日本の全体的な社会資本の充足度評価の結果にかかわらず、「衰退する日本」を選んだ者の割合が最も多い(5割程度もしくはそれ以上)。
- ・ 充足度評価が高いほど、希望のある将来を予測している割合が高い。
- ・ 社会資本の充足が国民の将来予測に希望を与える一つの要因となり得ると言える。

Q8-2. あなたはこういったインフラ(社会資本)が、全体としてどの程度充足していると考えますか。【日本全体では】(それぞれひとつだけ)

Q36. 日本の将来(2050年前後を想定)について、次のような意見(見方)があります。

1. **衰退する日本** 少子化・高齢化が進み、激化する国際競争の下、世界の中で現在の位置は保ち得ず、経済成長もマイナス気味となり、徐々に衰退していく
2. **定常社会の日本** 少子化・高齢化が進むが、女性の社会進出、技術革新、国民の努力もあって、経済成長がプラスマイナス0%といった「定常社会」となり、世界の中での位置も保ち、それなりに質の高い生活を維持する
3. **活力を保持した日本** 少子化・高齢化にも係わらず、女性の社会進出、技術革新、経済構造の改革、経営革新などにより、一定の成長を実現、世界の中での位置も保った、活力を保持した日本となる
4. **生産性が向上、成長する日本** 少子化・高齢化にも係わらず、女性の社会進出が進むことで、生産年齢人口が確保され、技術革新や経済構造の改革による生産性の更なる向上が図られ、経済に経営革新の、更なる進展などにより、高い成長を実現、世界の中での位置も高まる、活力ある日本となる

Q36-1. 将来の日本が最もなりそうであると予測される姿はどれですか。



P 値=0.001 未満

■社会資本に関する課題等の認知度と社会資本の充足度評価・将来予測等に関する相関分析

<分析の主旨>

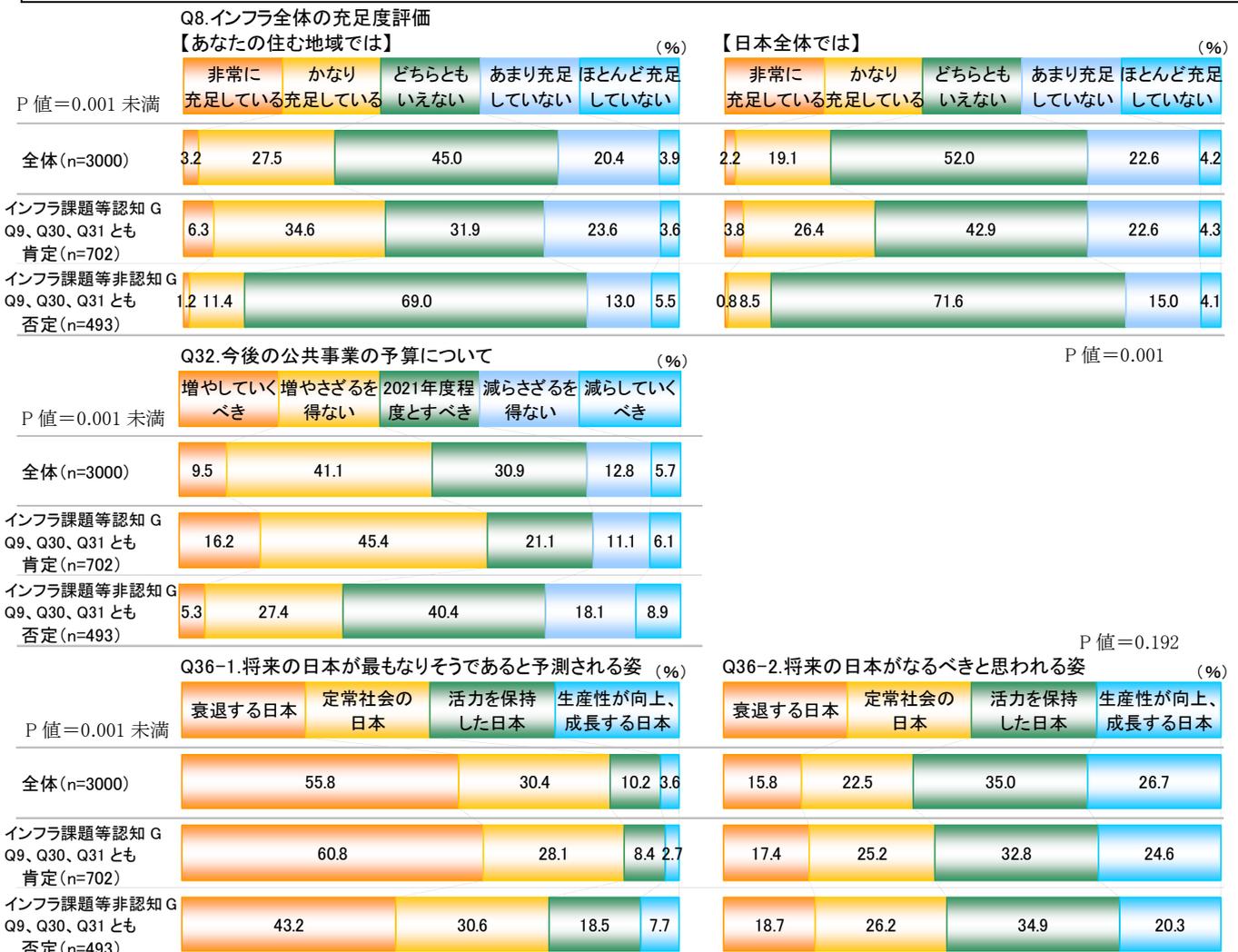
社会資本に関する課題等の認知度が、「全体的な社会資本の充足度評価」、「今後の公共事業費の増減の意向」、「日本の将来予測等」に与える影響を分析するため以下手順で分析を行った。

<分析の手順>

- 社会資本の課題等に関する設問として「維持管理等の重要度に関する設問(Q9)」、「諸外国でのインフラ投資増の動きに関する設問(Q30)」、「日本の厳しい地形・気候に関する設問(Q31)」がある。この3つの問い全てに知っていると回答したグループを「インフラに関する課題等を認知しているグループ」、3つの問い全てに知らないと回答したグループを「インフラに関する課題等を認知していないグループ」として抽出する。
- 上記で抽出したグループ毎に「全体的な社会資本の充足度に関する評価(Q8)」、「公共事業費の増減に関する意向(Q32)」、「日本の将来予測・なるべき姿<衰退⇄成長>(Q36)」についての傾向を分析。

<結果>

- インフラに関する課題等を認知しているグループはサンプル数 702(23.4%)、インフラに関する課題等を認知していないグループはサンプル数 493(16.4%)である。
- インフラに関する課題等を認知していないグループは全体平均と比較して、「全体的な社会資本の評価」について、どちらとも言えないが著しく高い。認知度の低さが判断保留の一因となっていると推測される。
- インフラに関する課題等を認知しているグループは全体平均と比較して、「全体的な社会資本の評価」が高く、「公共事業費の増加」に肯定的、「将来予測」は悲観的。
- 将来の日本のなるべきと思われる姿について、「インフラに関する課題等を認知しているグループ」、「インフラに関する課題等を認知していないグループ」とも「活力を保持した日本」、「生産性が向上し、成長する日本」を選択した割合が5割を超えている。



■社会生活における考え方と社会資本の充足度評価・将来予測等に関する相関分析

<分析の主旨>

社会生活における考え方等が、「全体的な社会資本の充足度評価」、「今後の公共事業費の増減の意向」、「日本の将来予測等」に与える影響を分析するため以下手順で分析を行った。

<分析の手順>

- ・ Q3 社会・生活の動向に関する考え方等に関する設問のうち、「そう思う計」と「そう思わない計」のサンプル数に偏りの少ない設問を抽出。
- ・ 上記の抽出した設問をテーマ毎にとりまとめ、以下の通りグループを抽出
 - (1) 仕事を重視するグループ【ウ】に肯定】 ⇔ 仕事を重視しないグループ【ウ】に否定】
ウ) 仕事に打ち込み、出世することは良い
 - (2) 都会暮らしに積極的なグループ【オ】に肯定】 ⇔ 都会暮らしに消極的なグループ【オ】に否定】
オ) 都市部、都市中心部で暮らしたい
 - (3) 社会参加に積極的なグループ【キ)ク)ケ】に肯定】 ⇔ 社会参加に消極的なグループ【キ)ク)ケ】に否定】
キ) 地域の活動には積極的に参加したい、ク) 政治、社会の動向に関心が高い、ケ) 社会に貢献する活動に取り組みたい
 - (4) 負担に積極的なグループ【シ)ス)セ】に肯定】 ⇔ 負担に消極的なグループ【シ)ス)セ】に否定】
シ) 公的サービスをより充実させるため、税金・料金などの負担を増やしてもよい
ス) 年金・医療制度のため、必要であればもっと負担をしてもよい
セ) 自分の生活は個々が守るべき、「公」は介入すべきでない
 - (5) 収入予測が楽観的なグループ【ツ】に肯定】 ⇔ 収入予測が悲観的なグループ【ツ】に否定】
ツ) 今後、自分や家族の収入は増えていく
- ・ 上記で抽出したグループ毎に「全体的な社会資本の充足度に関する評価(Q8)」、「公共事業費の増減に関する意向(Q32)」、「日本の将来予測・なるべき姿<衰退⇔成長>(Q36)」についての傾向を分析。

<結果>

■社会生活における考え方と社会資本の充足度評価・将来予測等に関する相関分析<仕事を重視するグループ ⇔ 仕事を重視しないグループ>

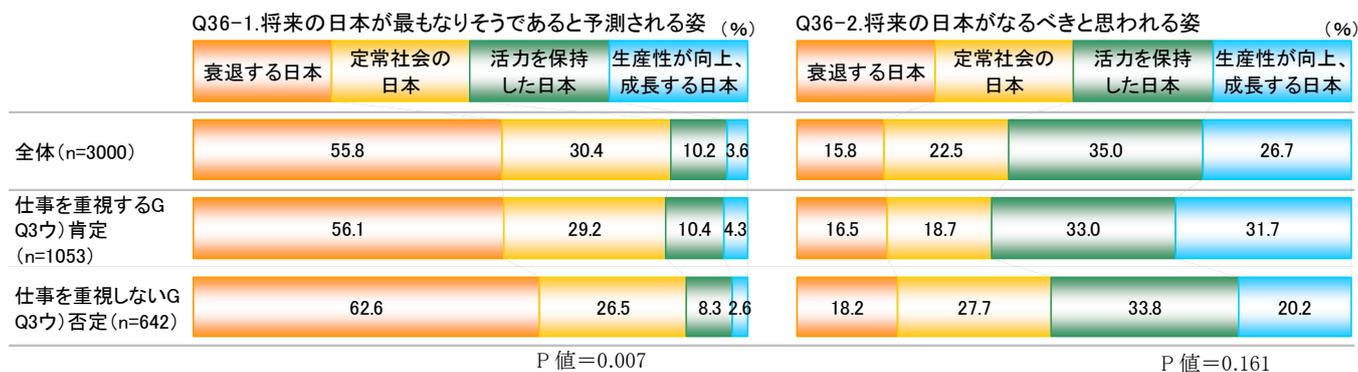
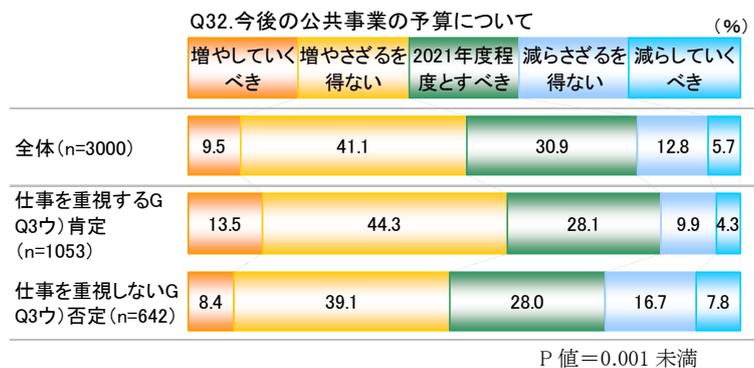
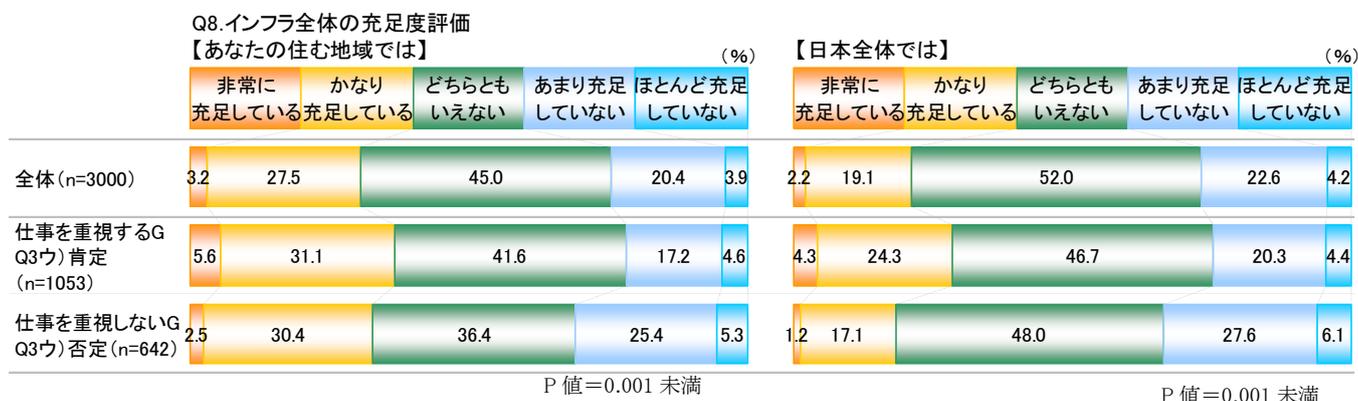
- 仕事を重視するグループはサンプル数 1053(35.1%)、仕事を重視しないグループはサンプル数 642(21.4%)である。
- 仕事を重視するグループは全体平均と比較して、「全体的な社会資本の評価」(充足度評価)が高く、「公共事業費の増加」に肯定的である。
- 仕事を重視しないグループは全体平均と比較して、日本のなりそうな姿について、悲観的である。
- 将来の日本のなるべきと思われる姿について、「仕事を重視するグループ」、「仕事を重視しないグループ」とも「活力を保持した日本」、「生産性が向上し、成長する日本」を選択した割合が5割を超えている。

Q3. あなたご自身は、社会・生活において、どのような考えをお持ちですか。

ウ) 仕事に打ち込み、出世することは良い

【仕事を重視するグループ】
(=「非常にそう思う」+「そう思う」)

【仕事を重視しないグループ】
(=「そう思わない」+「全くそう思わない」)



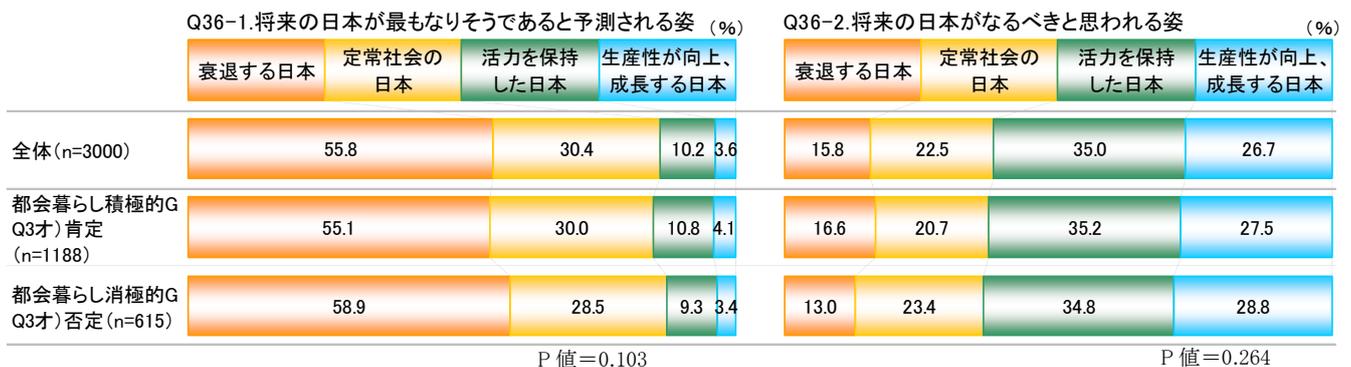
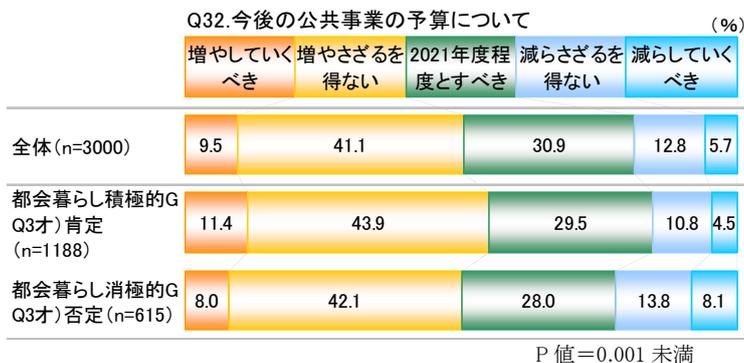
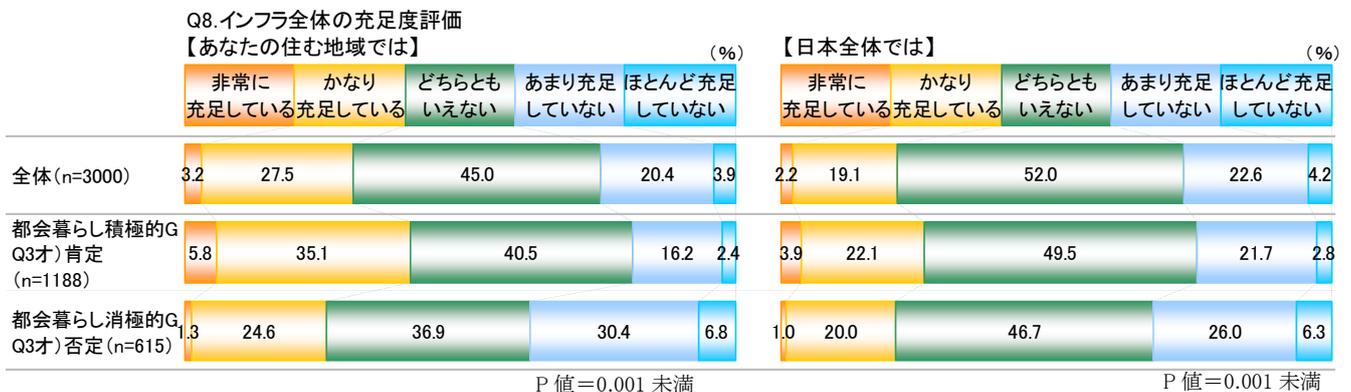
■社会生活における考え方と社会資本の充足度評価・将来予測等に関する相関分析<都会暮らしに積極的なグループ ⇄ 都会暮らしに消極的なグループ>

- ・ 都会暮らしに積極的なグループはサンプル数 1188(39.6%)、都会暮らしに消極的なグループはサンプル数 615(20.5%)である。
- ・ 都会暮らしに積極的なグループは全国平均と比較して、「全体的な社会資本の評価(居住地)」(充足度評価)が高い。一方で都会暮らしに消極的なグループは低い。
- ・ 都会暮らしに積極的なグループは全国平均と比較して、「公共事業費の増加」に肯定的。
- ・ 将来の日本のなるべきと思われる姿について、「都会暮らしに積極的なグループ」、「都会暮らしに消極的なグループ」とも「活力を保持した日本」、「生産性が向上し、成長する日本」を選択した割合が5割を超えている。

Q3. あなたご自身は、社会・生活において、どのような考えをお持ちですか。

オ) 都市部、都市中心部で暮らしたい

【都会暮らしに積極的なグループ(=「非常にそう思う」+「そう思う」)、都会暮らしに消極的なグループ(=「そう思わない」+「全くそう思わない」)】



■社会生活における考え方と社会資本の充足度評価・将来予測等に関する相関分析<社会参加に積極的なグループ ⇄ 社会参加に消極的なグループ>

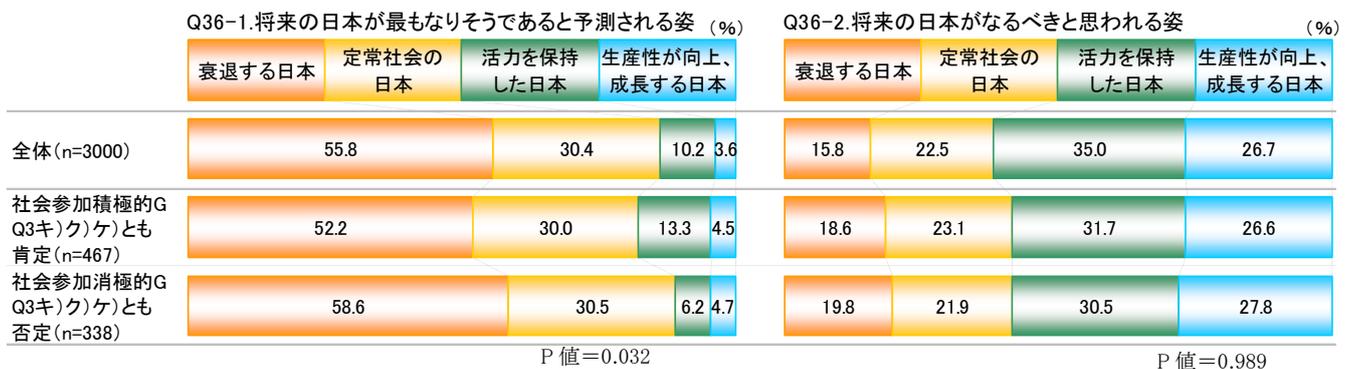
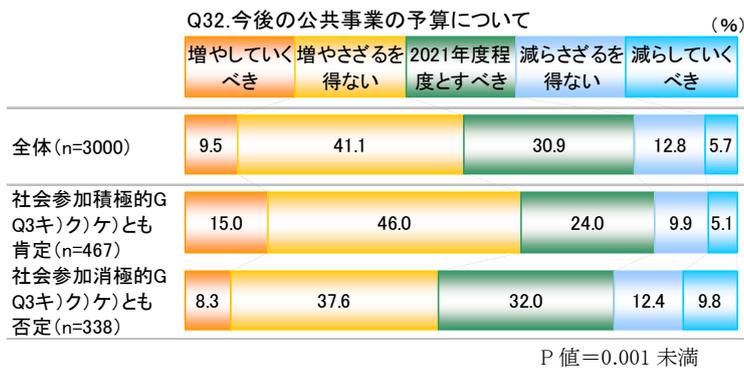
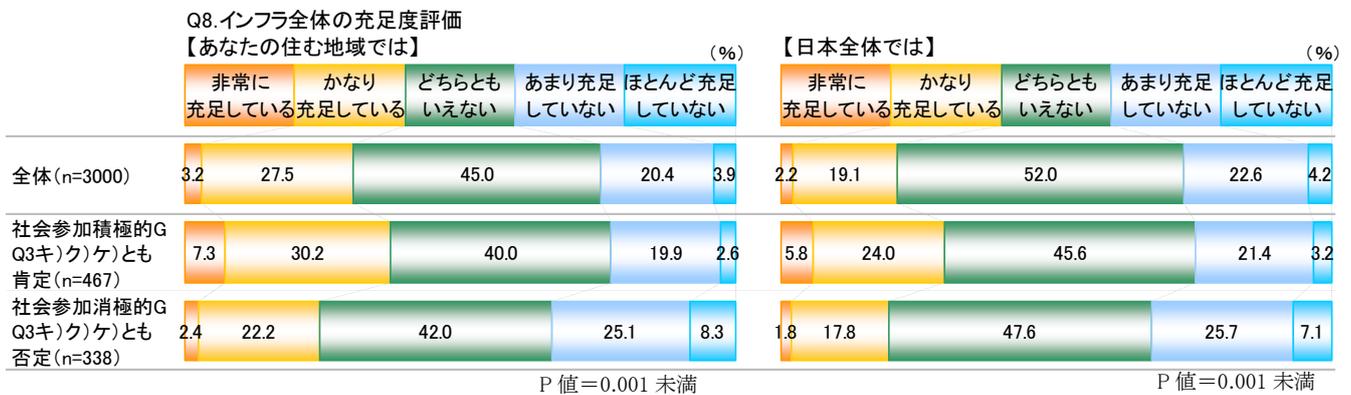
- ・ 社会参加に積極的なグループはサンプル数 467(15.6%)、社会参加に消極的なグループはサンプル数 338(11.2%)である。
- ・ 社会参加に積極的なグループは全体平均と比較して、「全体的な社会資本の評価」(充足度評価)が高く、「公共事業費の増加」に肯定的。
- ・ 社会参加に消極的なグループは社会参加に積極的なグループと逆の傾向。
- ・ 将来の日本のなるべきと思われる姿について、「社会参加に積極的なグループ」、「社会参加に消極的なグループ」とも「活力を保持した日本」、「生産性が向上し、成長する日本」を選択した割合が5割を超えている。

Q3. あなたご自身は、社会・生活において、どのような考えをお持ちですか。

- キ) 地域の活動には積極的に参加したい
- ク) 政治、社会の動向に関心が高い
- ケ) 社会に貢献する活動に組み組みたい

【社会参加に積極的なグループ
(=「非常にそう思う」+「そう思う」)】

【社会参加に消極的なグループ
(=「そう思わない」+「全くそう思わない」)】



■社会生活における考え方と社会資本の充足度評価・将来予測等に関する相関分析<負担に積極的なグループ ⇄ 負担に消極的なグループ>

- ・ 負担に積極的なグループはサンプル数 382(12.7%)、負担に消極的なグループはサンプル数 219(7.3%)である。
- ・ 負担に積極的なグループは全体平均と比較して、地域、日本とも「全体的な社会資本の評価」(充足度評価)が高く、「公共事業費の増加」に肯定的。
- ・ 負担に消極的なグループは負担に積極的なグループと逆の傾向。
- ・ 将来の日本のなるべきと思われる姿について、「負担に積極的なグループ」、「負担に消極的なグループ」とも「活力を保持した日本」、「生産性が向上し、成長する日本」を選択した割合が5割を超えている。

Q3. あなたご自身は、社会・生活において、どのような考えをお持ちですか。

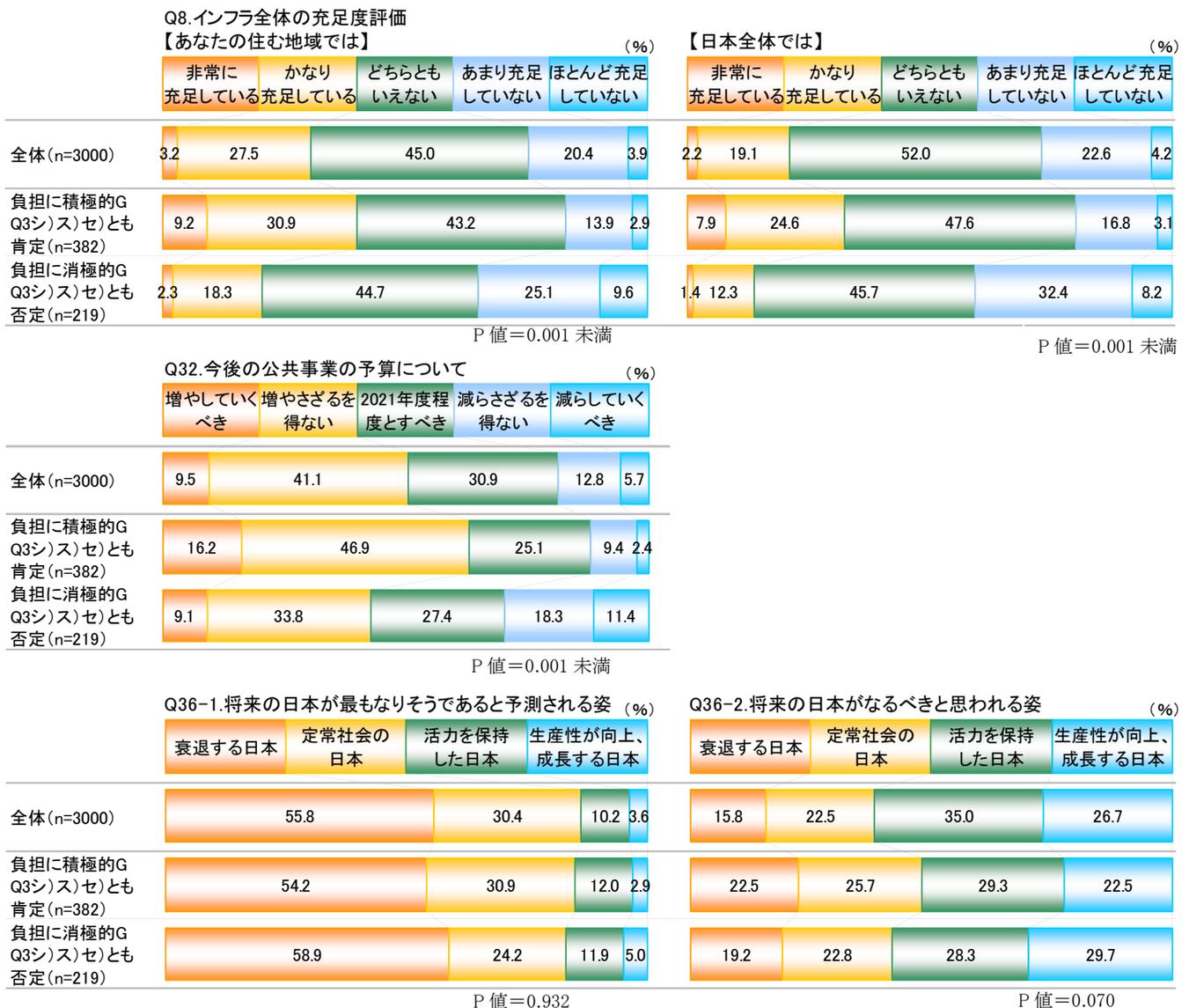
- シ) 公的サービスをより充実させるため、税金・料金などの負担を増やしてもよい
- ス) 年金・医療制度のため、必要であればもっと負担をしてもよい
- セ) 自分の生活は個々を守るべき、「公」は介入すべきでない

【負担に積極的なグループ

(=「非常にそう思う」+「そう思う」)

【負担に消極的なグループ

(=「そう思わない」+「全くそう思わない」)

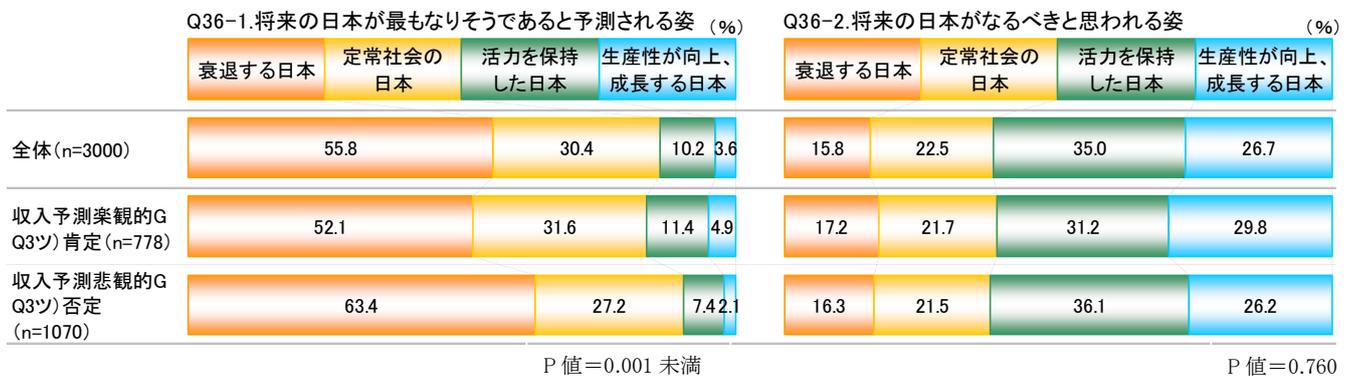
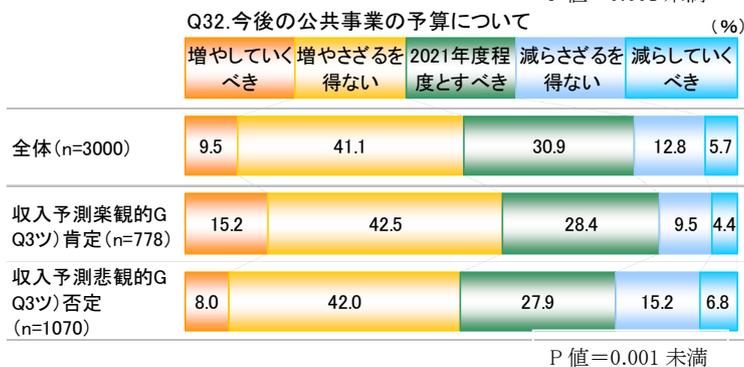
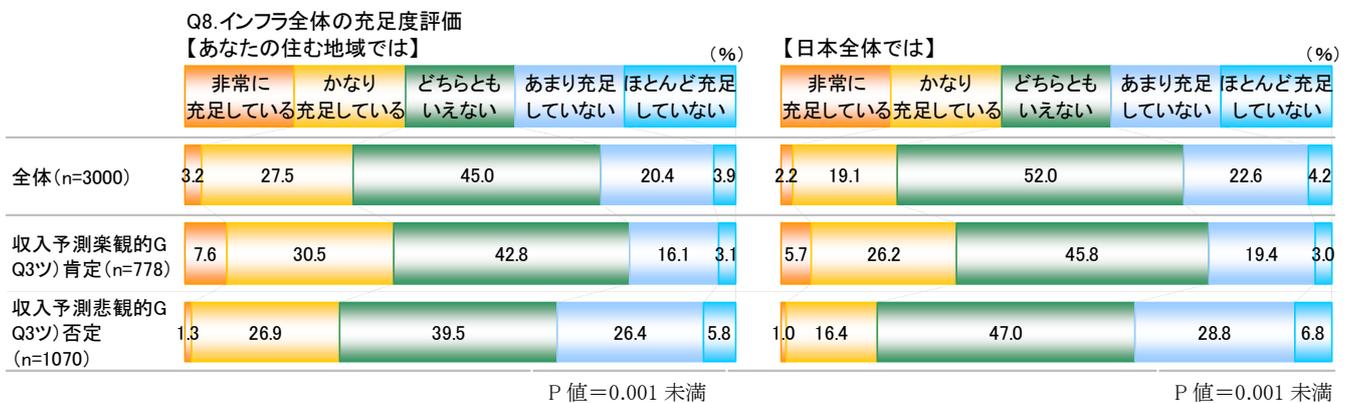


■社会生活における考え方と社会資本の充足度評価・将来予測等に関する相関分析<収入予測が楽観的なグループ ⇔ 収入予測が悲観的なグループ>

- ・ 収入予測が楽観的なグループはサンプル数 778 (25.9%)、収入予測が悲観的なグループはサンプル数 1070 (35.7%)である。
- ・ 収入予測が楽観的なグループは全体平均と比較して、「全体的な社会資本の評価」(充足度評価)が高く、「公共事業費の増加」に肯定的。
- ・ 収入予測が悲観的なグループは全体平均と比較して、「日本の将来予測」が悲観的。
- ・ 将来の日本のなるべきと思われる姿について、「収入予測が楽観的なグループ」、「収入予測が悲観的なグループ」とも「活力を保持した日本」、「生産性が向上し、成長する日本」を選択した割合が5割を超えている。

Q3. あなたご自身は、社会・生活において、どのような考えをお持ちですか。

ツ) 今後、自分や家族の収入は増えていく [収入予測が楽観的なグループ(=「非常にそう思う」+「そう思う」)、収入予測が悲観的なグループ(=「そう思わない」+「全くそう思わない」)]



■将来に関する自由記述設問の分析

<分析の主旨>

- ・ 国民が望む国の将来像、それに必要となる「インフラ」のニーズを探る。
- ・ 自由な記述により、期待する“要素”や印象を探っていく。

<頻出単語の抽出>

- ・ 日本の将来に関する自由記述設問、以下2問への回答について、頻出単語を抽出した。
 - Q38. 日本が将来（2050年前後を想定）どのような社会になって欲しいですか。
 - Q38-1. そのためには、どのような社会基盤（例えば、防災施設や交通機関、情報通信施設など）の整備が重要だと思われますか。

| 順位 | 単語 | 出現頻度 | 出現率 |
|----|--------|------|-----|
| 1 | 社会 | 1338 | 45% |
| 2 | 無い | 425 | 14% |
| 3 | 欲しい | 323 | 11% |
| 4 | 安心 | 271 | 9% |
| 5 | 国 | 256 | 9% |
| 6 | なる | 230 | 8% |
| 7 | 日本 | 198 | 7% |
| 8 | 安全 | 193 | 6% |
| 9 | 暮らす | 166 | 6% |
| 10 | ある：連体詞 | 165 | 6% |
| 11 | 生活 | 161 | 5% |
| 12 | 国民 | 139 | 5% |
| 13 | する | 120 | 4% |
| 14 | 人：名詞 | 110 | 4% |
| 15 | 出来る | 107 | 3% |
| 16 | 分かる | 102 | 3% |
| 17 | 格差 | 100 | 3% |
| 18 | 平和 | 92 | 3% |
| 19 | 世界 | 90 | 3% |
| 20 | 豊か | 89 | 3% |
| 21 | 思う | 86 | 3% |
| 22 | 住み | 80 | 3% |
| 23 | 地域 | 78 | 3% |
| 24 | 子供 | 78 | 3% |
| 25 | 活力 | 75 | 2% |
| 26 | 災害 | 74 | 2% |
| 27 | 人口 | 70 | 2% |
| 28 | 持つ | 67 | 2% |
| 29 | 政治 | 61 | 2% |
| 30 | 良い | 60 | 2% |
| 31 | ある：動詞 | 60 | 2% |
| 32 | 維持 | 60 | 2% |
| 33 | 経済 | 59 | 2% |
| 34 | 安定 | 58 | 2% |
| 35 | 暮らし | 58 | 2% |
| 36 | 環境 | 58 | 2% |
| 37 | 充実 | 56 | 2% |
| 38 | 高齢者 | 49 | 2% |
| 39 | 強いる | 46 | 2% |
| 40 | 生きる | 46 | 2% |

| 順位 | 単語 | 出現頻度 | 出現率 |
|----|-------|------|-----|
| 1 | 整備 | 410 | 14% |
| 2 | 無い | 366 | 12% |
| 3 | 施設 | 272 | 9% |
| 4 | 充実 | 236 | 8% |
| 5 | 防災 | 234 | 8% |
| 6 | 社会 | 224 | 7% |
| 7 | 情報 | 216 | 7% |
| 8 | 分かる | 210 | 7% |
| 9 | する | 180 | 6% |
| 10 | 必要 | 149 | 5% |
| 11 | 教育 | 136 | 5% |
| 12 | 思う | 132 | 4% |
| 13 | インフラ | 119 | 4% |
| 14 | 通信 | 114 | 4% |
| 15 | 欲しい | 108 | 4% |
| 16 | 人：名詞 | 102 | 3% |
| 17 | 交通機関 | 100 | 3% |
| 18 | 地域 | 99 | 3% |
| 19 | 基盤 | 97 | 3% |
| 20 | なる | 87 | 3% |
| 21 | 災害 | 85 | 3% |
| 22 | 設備 | 84 | 3% |
| 23 | 政治家 | 81 | 3% |
| 24 | 環境 | 78 | 3% |
| 25 | 重要 | 76 | 3% |
| 26 | 国民 | 69 | 2% |
| 27 | 対策 | 66 | 2% |
| 28 | ある：動詞 | 65 | 2% |
| 29 | 子育て | 62 | 2% |
| 30 | 国 | 61 | 2% |
| 31 | 税金 | 60 | 2% |
| 32 | かんがえる | 53 | 2% |
| 33 | 生活 | 52 | 2% |
| 34 | 安全 | 51 | 2% |
| 35 | 強化 | 51 | 2% |
| 36 | 政治 | 51 | 2% |
| 37 | 行政 | 51 | 2% |
| 38 | 制度 | 49 | 2% |
| 39 | 地方 | 49 | 2% |
| 40 | 日本 | 49 | 2% |

<まとめ>

- ・ 「なって欲しい日本の将来」については、「安全」、「安心」、「災害」などの安全・安心にかかる単語と「経済」、「活力」などの活力・交流に関する単語の出現頻度が比較的高い。
- ・ 「そのために重要な社会基盤」としては、「防災」、「交通機関」の他、「教育」、「情報」、「環境」などの単語の出現頻度が比較的高い。
- ・ 「なって欲しい日本の将来」、「そのために重要な社会基盤」どちらについても、「成長」や「発展」などの単語は見受けられず、「その頃には生きていない」、「もう手遅れ」、「衰退、人口減少、財政破綻」、「政治離れによる混沌の世界」、「どうあがいたって結局、少子高齢化と衰退は避けられない。あるがままに受け入れたほうがいい。」などの諦めを感じさせる回答も一定数あった【P41 参照】。

【参考】日本のなるべき姿として「衰退した日本」を選択した者の自由記述回答に関する考察

<主旨>

日本のなるべき姿を「衰退した日本」を選択することは、通常では考えにくい。どのような理由からそのような選択となったかを分析するため、日本のなるべき姿として「衰退した日本」を選択した者の自由記述回答を確認した。

<自由記述回答の類型化>

- ・ 日本のなるべき姿に関する設問(Q36-2)で「衰退する日本」を選んだ者は474名(15.8%)であった。
- ・ 上記474名のQ38「日本が将来(2050年前後を想定)どのような社会になって欲しいですか?【自由記述】」に対する回答を大別すると以下の5つとなる。
 - 1) 「わからない」などの回答【15%程度】
「わからない」、「特になし」など
 - 2) ネガティブで諦めのにじむ回答【10%程度】
「その頃には生きていない」、「もう手遅れ」、「衰退、人口減少、財政破綻」、「政治離れによる混沌の世界」、「どうあがいたって結局、少子高齢化と衰退は避けられない。あるがままに受け入れたほうがいい。」など
 - 3) ポジティブだが、衰退-成長以外の価値観をより重視していると思われる回答【60%程度】
「格差縮小の社会」、「安心、安全な自由な国」、「福祉厚生に不安のない社会」、「幸せな日本」、「若い人も高齢の方も住みやすい社会」、「平和な社会」、「都会田舎関わらず地域格差なく暮らせる、柔軟性のある社会」、「明るい社会」、「地元住民通しで助け合える社会」、「自然と共存」など
 - 4) 日本のなるべき姿に関する設問(Q36-2)と方向性が逆の回答【5%程度】
「経済大国」、「成長する国」、「経済が上向きになってほしい」、「かつての経済力が強かった日本」など
 - 5) その他【10%程度】
「充実した社会」、「安定した暮らし」、「強い日本」、「現状維持」など

<まとめ>

- ・ 諦めの感情からQ36-2で「衰退する日本」を選択したものとの推測もあったが、その割合は1割程度であり、諦めが支配的な要因であるとは言い難い。
- ・ 上記類型のなかで最も割合が多いのは、「3)ポジティブだが、衰退-成長以外の価値観をより重視していると思われる回答」である。Q36-2で「衰退する日本」を選択した者の中には、経済的成長以外の価値観を重視している者が多いと推測される。
- ・ 4)については、Q36-2「将来の日本がなるべきと思われる姿はどれですか」とQ38「日本が将来(2050年前後を想定)どのような社会になって欲しいですか?」では設問の言い回しが僅かに異なり、「なるべき日本」と「なって欲しい日本」で別の考えを持っている可能性がある。
- ・ 本考察では、日本の将来に対し、「強い諦めの感情を持つ者」や「経済的成長より他の価値観(格差の是正、安全・安心、福祉の充実など)を重視していると思われる者」が一定数いることは明らかとなったが、Q36-2で「衰退する日本」を選択した理由を特定するには至らなかった。

属性(フェイスシート)

Q39.性別

| | n | (%) | |
|----|------|------|------|
| | | 男性 | 女性 |
| 今回 | 3000 | 50.0 | 50.0 |
| 前回 | 3000 | 50.0 | 50.0 |

Q40.年齢

| | n | (%) | | | | | | | | | | | | |
|----|------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| | | 18～19歳 | 20～24歳 | 25～29歳 | 30～34歳 | 35～39歳 | 40～44歳 | 45～49歳 | 50～54歳 | 55～59歳 | 60～64歳 | 65～69歳 | 70～74歳 | 75歳以上 |
| 今回 | 3000 | 0.8 | 6.0 | 13.2 | 8.9 | 11.1 | 9.4 | 10.6 | 11.1 | 8.9 | 8.8 | 6.2 | 4.0 | 0.9 |
| 前回 | 3000 | 0.4 | 5.7 | 13.9 | 8.6 | 11.4 | 9.6 | 10.4 | 11.4 | 8.6 | 8.7 | 7.4 | 3.9 | |

Q41.職業

| | n | (%) | | | | | | | | |
|----|------|----------|----------|-----|-----|---------|-----|-----------|-----|------|
| | | 会社員・会社役員 | 公務員・団体職員 | 自営業 | 自由業 | 専業主婦(夫) | 学生 | パート・アルバイト | その他 | 無職 |
| 今回 | 3000 | 44.5 | 7.7 | 5.4 | 1.9 | 12.9 | 3.2 | 13.8 | 1.3 | 9.4 |
| 前回 | 3000 | 41.0 | 6.8 | 6.1 | 2.8 | 15.7 | 2.3 | 13.9 | 1.1 | 10.2 |

Q42.世帯構成

| | n | (%) | | | | | |
|----|------|------|-------------|------------|--------------|-----|-------|
| | | 1人世帯 | 1世代世帯(夫婦のみ) | 2世代世帯(親と子) | 3世代世帯(親と子と孫) | その他 | わからない |
| 今回 | 3000 | 21.4 | 24.6 | 47.1 | 5.2 | 0.8 | 0.9 |
| 前回 | 3000 | 21.0 | 22.4 | 47.9 | 6.7 | 0.8 | 1.1 |

Q43.居住地域の種別

| | n | (%) | | | | | | | | |
|----|------|---|--|---------------|------------------------------|--|-----------|--------|-----|-------|
| | | 三大都市圏の政令指定都市(さいたま市・千葉市・横浜市・川崎市・相模原市・名古屋市・京都市・大阪市・堺市・神戸市)及び東京23区 | 三大都市圏の県庁所在地及び人口30万人以上の都市(所沢市・四日市市・大津市など) | 三大都市圏の上記以外の地域 | 地方中枢都市(札幌市・仙台市・広島市・福岡市・北九州市) | 地方中核都市人口30万人以上の都市及び県庁所在地(旭川市・いわき市・浜松市・福山市など) | 地方圏のその他の市 | 地方圏の町村 | その他 | わからない |
| 今回 | 3000 | 28.2 | 10.1 | 16.6 | 8.5 | 8.3 | 18.6 | 6.7 | 0.6 | 2.5 |
| 前回 | 3000 | 26.1 | 6.5 | 15.1 | 9.1 | 9.0 | 24.4 | 6.8 | 0.2 | 2.9 |

Q44.居住年数

| | n | (%) | | | | | | | |
|----|------|------|---------|---------|----------|-----------|-----------|-----------|-------|
| | | 1年未満 | 1年～2年未満 | 2年～5年未満 | 5年～10年未満 | 10年～15年未満 | 15年～20年未満 | 20年～30年未満 | 30年以上 |
| 今回 | 3000 | 6.2 | 6.6 | 15.3 | 13.4 | 10.3 | 10.6 | 17.3 | 20.3 |
| 前回 | 3000 | 5.8 | 6.3 | 12.2 | 14.1 | 12.0 | 10.3 | 17.2 | 22.1 |

Q45.住宅の状況

| | n | (%) | | | | | | | |
|----|------|-----------|--------------|----------------|----------|----------------|-----------------------|-----|-----|
| | | 持ち家(一戸建て) | 持ち家(マンションなど) | 公営(都道府県市町村営)住宅 | 公団(公社)住宅 | 給与住宅(社宅・公務員住宅) | 民間の賃貸住宅(アパート・マンションなど) | 借間 | その他 |
| 今回 | 3000 | 50.8 | 15.9 | 1.0 | 1.0 | 3.0 | 26.9 | 0.9 | 0.4 |
| 前回 | 3000 | 51.9 | 14.8 | 1.5 | 2.4 | 2.3 | 25.8 | 1.0 | 0.4 |

Q46.日常生活での主な移動手段

| | n | (%) | | | | | | |
|----|------|------|-----|------|-----|------|-----|-----|
| | | 電車 | バス | 自家用車 | バイク | 自転車 | 徒歩 | その他 |
| 今回 | 3000 | 23.1 | 3.6 | 49.4 | 1.7 | 11.8 | 9.9 | 0.6 |
| 前回 | 3000 | 22.0 | 3.5 | 50.0 | 1.8 | 13.4 | 9.2 | 0.2 |

Q47.自動車の運転頻度

(%)

| | n | ほぼ毎日運転する | 休日のみ運転する(週に1~2回程度) | あまり運転しない(年に数回程度) | 全く運転しない(免許をもっていないなど) | [運転する計] | [運転しない計] |
|----|------|----------|--------------------|------------------|----------------------|---------|----------|
| 今回 | 3000 | 42.6 | 22.3 | 14.2 | 20.9 | 64.9 | 35.1 |
| 前回 | 3000 | 44.7 | 20.4 | 12.2 | 22.7 | 65.1 | 34.9 |

Q48.主な収入源

(%)

| | n | 給料 | 自営での収入 | 年金 | その他 |
|----|------|------|--------|------|------|
| 今回 | 3000 | 73.0 | 6.5 | 11.1 | 9.4 |
| 前回 | 3000 | 68.9 | 7.8 | 12.2 | 11.1 |

Q49.世帯年収(税込)

(%)

| | n | ~99万円 | 100万~199万円 | 200万~299万円 | 300万~399万円 | 400万~499万円 | 500万~599万円 | 600万~699万円 | 700万~799万円 | 800万~899万円 | 900万~999万円 | 1000万~1199万円 | 1200万~1399万円 | 1400万~1599万円 | 1600万~1799万円 | 1800万~1999万円 | 2000万円以上 |
|----|------|-------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|----------|
| 今回 | 3000 | 4.2 | 6.3 | 10.1 | 14.0 | 13.4 | 11.8 | 8.9 | 7.6 | 5.9 | 4.5 | 5.7 | 2.8 | 2.1 | 1.0 | 0.4 | 1.5 |
| 前回 | 3000 | 5.4 | 5.9 | 11.2 | 15.5 | 13.7 | 11.5 | 7.8 | 7.8 | 5.6 | 4.3 | 4.8 | 2.4 | 1.3 | 0.7 | 0.5 | 1.6 |

Q50-1.主な情報入手先(利用するもの)

(%)

| | n | 新聞 | テレビ | インターネットニュース | インターネットWebサイト | SNS | ラジオ | 雑誌 | その他 |
|----|------|------|------|-------------|---------------|------|------|------|-----|
| 今回 | 3000 | 39.9 | 84.0 | 88.5 | 63.9 | 50.1 | 21.6 | 20.3 | 0.7 |
| 前回 | 3000 | 53.4 | 88.0 | 86.9 | 61.2 | 聴取なし | 25.4 | 25.5 | 0.5 |

Q50-2.主な情報入手先(最もよく利用)

(%)

| | n | 新聞 | テレビ | インターネットニュース | インターネットWebサイト | SNS | ラジオ | 雑誌 | その他 |
|----|------|------|------|-------------|---------------|------|-----|-----|-----|
| 今回 | 3000 | 7.3 | 34.3 | 31.8 | 13.1 | 11.9 | 1.2 | 0.2 | 0.3 |
| 前回 | 3000 | 10.3 | 39.1 | 33.9 | 14.7 | 聴取なし | 1.4 | 0.3 | 0.4 |

Q51.災害体験

| | 今回 (%) | | 前回 (%) | | | |
|-------|--------|-------------|-------------|------|-------------|-------------|
| | n | 災害に遭ったことがある | 災害に遭ったことはない | n | 災害に遭ったことがある | 災害に遭ったことはない |
| 自分自身 | 3000 | 14.2 | 85.8 | 3000 | 15.1 | 84.9 |
| 家族 | 3000 | 14.7 | 85.3 | 3000 | 15.5 | 84.5 |
| 親戚 | 3000 | 13.8 | 86.2 | 3000 | 15.3 | 84.7 |
| 身近な友人 | 3000 | 14.2 | 85.8 | 3000 | 15.0 | 85.0 |

Q51.災害に遭った時期

| | 今回 (%) | | | | | | | | | | | 前回 (%) | | | | | | | | | | |
|-------|--------|-----|-------|------------|-------|--------------|--------------|---------|---------------|----------|--------|--------|----------|-------|------------|-------|--------------|---------|--------------|----------|----------|--------|
| | n | 1年前 | 2~4年前 | 5~6年前(熊本含) | 7~9年前 | 10~15年前(東北含) | 16~19年前(新潟含) | 20~22年前 | 23年~29年前(兵庫含) | 30年~39年前 | 40年以上前 | n | 1年前(熊本含) | 2~4年前 | 5~6年前(東北含) | 7~9年前 | 10~15年前(新潟含) | 16~19年前 | 20~22年前(兵庫含) | 23年~29年前 | 30年~39年前 | 40年以上前 |
| 自分自身 | 423 | 2.4 | 23.4 | 9.2 | 0.9 | 33.1 | 2.4 | 5.4 | 12.8 | 2.8 | 7.6 | 452 | 9.1 | 4.9 | 29.0 | 2.9 | 13.7 | 2.4 | 19.5 | 6.0 | 4.4 | 8.2 |
| 家族 | 440 | 2.7 | 19.1 | 9.5 | 1.8 | 34.3 | 2.7 | 5.5 | 15.5 | 3.9 | 5.0 | 463 | 11.7 | 5.0 | 31.5 | 3.2 | 11.0 | 1.5 | 20.3 | 5.6 | 3.9 | 6.3 |
| 親戚 | 411 | 3.6 | 15.6 | 7.8 | 1.2 | 39.4 | 2.2 | 5.6 | 14.6 | 4.4 | 5.6 | 459 | 16.1 | 3.9 | 35.9 | 2.8 | 9.6 | 0.2 | 19.6 | 3.7 | 3.5 | 4.6 |
| 身近な友人 | 424 | 5.2 | 21.0 | 9.7 | 1.4 | 40.3 | 1.9 | 3.5 | 12.5 | 2.4 | 2.1 | 450 | 18.9 | 5.6 | 40.7 | 2.2 | 8.9 | 0.2 | 17.3 | 3.6 | 1.6 | 1.1 |